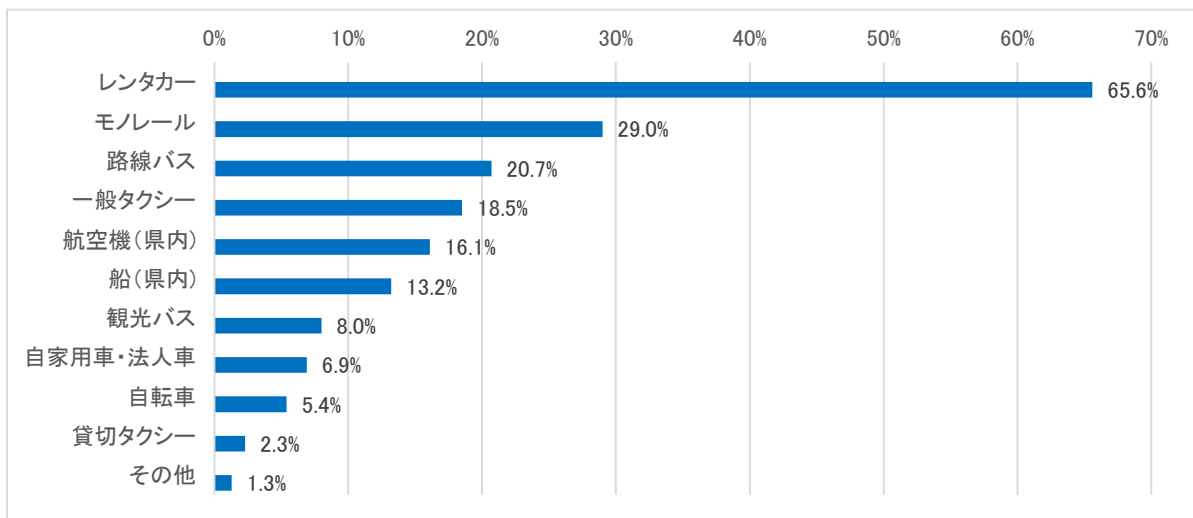


(5) 交通体系

① 県内の二次交通の概況

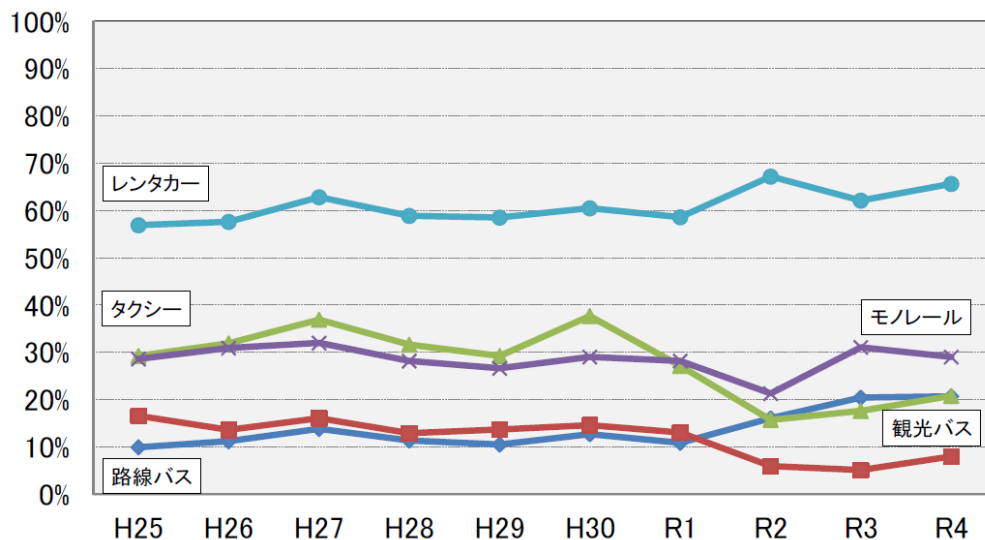
- ・ 沖縄県の観光統計実態調査によれば、沖縄県内に訪れる観光客のレンタカー利用は 65.6%となっている。次いでモノレールが 29.0%、路線バスが 20.7%となっている。
- ・ 利用交通手段の利用状況推移をみると、レンタカー利用率は増減を繰り返しつつも長期的にみると増加している。また、観光バス、タクシー等の利用率が前年度よりも増加している。タクシーの割合は近年減少傾向にあったが、令和3年度(2021年度)から増加に転じている。

図:1-18 沖縄滞在中に利用した交通手段 令和4年(2022年)



出典: 沖縄県観光統計実態調査より作成

図:1-19 沖縄滞在中に利用した交通手段(主要交通手段の利用状況推移)(年度)



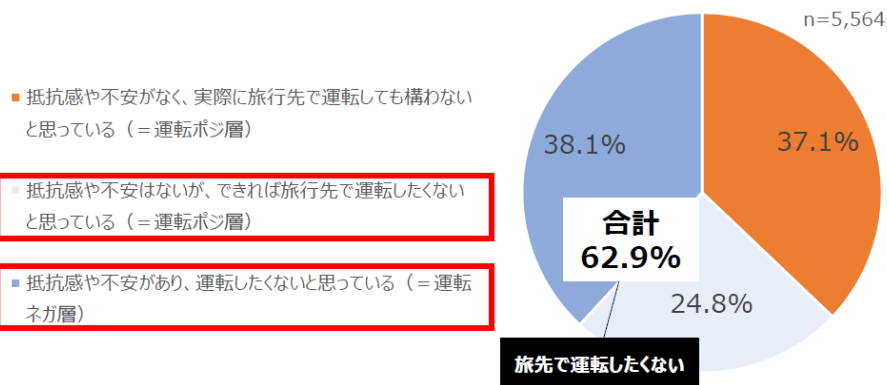
出典: 沖縄県観光要覧(令和4年, 2022年)

②移動手段に関する意識調査

- ・ 沖縄県とOCVBがZ世代(18~25歳)を対象に行った「沖縄旅行における移動手段に関する意識調査(令和5年,2023年1月)」によれば、旅行先で「運転したくないと思っている」割合は、62.9%と半数以上に上っている。
- ・ 沖縄旅行でZ世代が思い浮かべる交通手段は、レンタカーが57.0%、バスが51.1%である。

図:1-20 Z世代の旅先での運転へのハードルとマインド

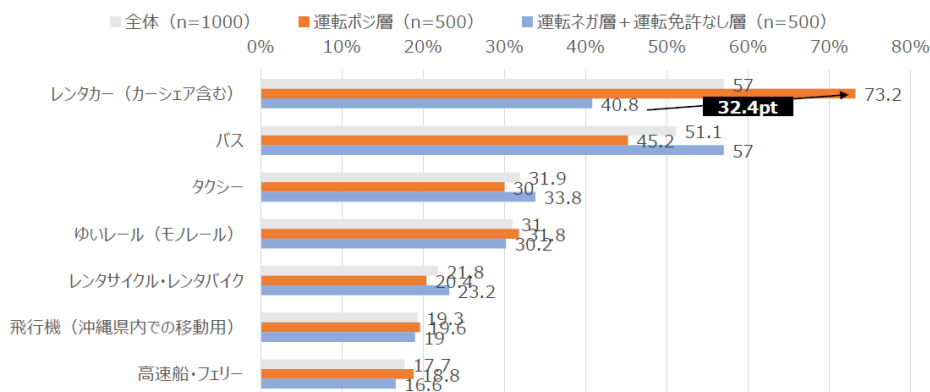
- 旅行先で運転することに対し、62.9%が「運転したくない」と思っている
- この設問で、「抵抗感や不安がなく、実際に旅行先で運転しても構わないと思っている」「抵抗感や不安はないが、できれば旅行先で運転したくないと思っている」人を「運転ポジ層」、「抵抗感や不安があり、運転したくないと思っている」人を「運転ネガ層」と分類。そこに、「免許なし層」を加えて、集計軸として活用



出典:Z世代を対象とした「沖縄旅行における移動手段に関する意識調査」OCVB(令和5年,2023年)

図:1-21 Z世代が連想する沖縄での交通手段

- 沖縄旅行でZ世代が思い浮かべる現地での移動手段はレンタカー(カーシェア含む)が57%、バスが51.1%
- 旅先での運転インサイト別に見ると「運転ネガ層+運転免許なし層」のうち、レンタカーを思い浮かべた人は40.8%、「運転ポジ層」は73.2%と30pt以上のギャップがある



出典:Z世代を対象とした「沖縄旅行における移動手段に関する意識調査」OCVB(令和5年,2023年)

③北部地域の二次交通の状況

ア. バス

- ・ 路線バスは17路線が運行しており、コミュニティバスは名護市、国頭村、東村、伊平屋村で運行している。
- ・ 那覇・名護間は、路線バス、高速バス、急行バス、空港シャトルバスが運行しており、交通利便性が高いが、その他の地域は路線バスの種類や便数が限られ、交通利便性が低い状況がみられる。

表:1-21 北部地域の路線バス

系統	路線名	事業者	運行区間		所要時間 ※1	便数 ※2	料金 ※3
			起点	終点			
20	名護西線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	那覇バスターミナル	約140分	3便	160円～ 1,940円
22	名護うるま線	沖縄バス	名護バスターミナル	中部病院	約80分	3便	160円～ 1,530円
48	石川読谷線	沖縄バス	東山入口	読谷バスターミナル	約40分	7便	160円～ 720円
65	本部半島線渡久地廻り	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	名護バスターミナル(右廻り循環)	約110分	13便	160円～ 1,500円
66	本部半島線今帰仁廻り	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	名護バスターミナル(左廻り循環)	約110分	14便	160円～ 1,500円
67	辺土名線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	辺土名バスターミナル	約60分	12便	160円～ 1,070円
70	備瀬線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	新里入口	約50分	1便	160円～ 1,070円
72	屋我地線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	運天原	約40分	5便	160円～ 740円
76	瀬底線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	瀬底	約50分	2便	160円～ 810円
77	名護東線	沖縄バス	名護バスターミナル	那覇バスターミナル	約190分	20便	160円～ 1,940円
78	名護東部線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	有津	約50分	3便	160円～ 1,000円
111	高速バス	琉球バス/沖縄バス 東洋バス/那覇バス	名護バスターミナル	那覇空港	約120分	11便	240円～ 2,230円
117	高速バス(美ら海直行)	琉球バス/沖縄バス /那覇バス	ホテルオリオンモトリゾート &スパ	那覇空港	約170分	10便	240円～ 2,550円
120	名護西空港線	琉球バス/沖縄バス	名護バスターミナル	那覇空港	約150分	20便	240円～ 2,040円
YKB	やんばる急行	やんばる急行バス	運天港	那覇空港	約180分	11便	160円～ 2,000円
4T	四島線	やんばる急行バス	ヒルトン沖縄瀬底リゾート	古宇利島物産センター	約80分	7便	160円～ 800円
—	—	伊江島観光バス	伊江港・営業所前	真謝入口	約20分	3便	150円～ 250円

※1所要時間は各系統の1便の所要時間を参考としている。(ナビタイムジャパン参照)

※2便数は起点から出発する便の便数である。

※3料金は起点からの終点までの料金

出典:各事業者公式サイト

※「本部町内シャトルバス」は、「海からぐるっとExpress」の利用者に限る

表:1-22 北部地域のコミュニティバス

系統	路線名	市町村名	運行区間		所要時間 ※1	便数 ※2	料金 ※3
			起点	終点			
-	二見以北線	名護市	名護バスターミナル	有津	約100分	6便	200円
-	循環線	名護市	名護バスターミナル	名護バスターミナル	約50分	8便	200円
-	奥線	国頭村	辺土名	奥	約50分	2便	600円
-	東線	国頭村	辺土名	安田・安波・楚洲	約70分	2便	600円
-	高江・源河線	東村	名護市源河	東村役場・高江売店	約55分	3便	無料
-	高江・大宜味線	東村	道の駅大宜味ビジターセンター	高江売店前	約45分	3便	無料
-	-	伊平屋村	前泊港(南廻り)	前泊港	約70分	3便	100円
-	-	伊平屋村	前泊港(北廻り)	前泊港	約70分	3便	100円

※1所要時間は各系統の1便の所要時間を参考としている。
 ※2便数は起点から出発する便の便数である。
 ※3料金は起点からの終点までの料金
 出典:名護市、国頭村、東村、伊平屋村公式サイトより

表:1-23 北部地域の空港シャトルバス

系統	路線名	業者名	運行区間		所要時間 ※1	便数 ※2	料金 ※3
			起点	終点			
-	空港リムジンバス(C)	沖縄バス	那覇空港	ANA万座ビーチ	約110分	2便	380円～ 1,730円
-	空港リムジンバス(CD)	沖縄バス	那覇空港	かねひで喜瀬ビーチ	約140分	3便	200円～ 2,240円
-	空港リムジンバス(DE)	沖縄バス	那覇空港(那覇バスターミナル)	ホテルオリオンモトブリゾート&スパ	約170分	3便	160円～ 2,550円
-	リゾートライナー／ エアポートライナー	沖縄エアポートシャトル	那覇空港	沖縄美ら海水族館	約180分	9便	2,000円

※1所要時間は各系統の1便の所要時間を参考としている。
 ※2便数は起点から出発する便の便数である。
 ※3料金は起点からの終点までの料金
 ※カーリー観光バスは2020年4月5日～当面運休
 出典:沖縄バスHP、公式サイト

イ. タクシー

- 運輸要覧(令和5年(2023年)12月 沖縄総合事務局)によると、北部地域には、法人タクシー事業者が15社所在している。タクシーの所有台数の合計は253台(タクシー251台、ハイヤー2台)となっている。個人タクシーは沖縄本島内に1,132台、運転者数が1,132人となっている。
- 沖縄県内のタクシー運転手は減少傾向にあり、平成30年(2018年)に8,448人が、令和4年(2022年)には6,735人となり、1,713人の減となっている。

表:1-24 北部地域の法人タクシー

	No	事業者	所在地	所有台数
法人 タ ク シ ー	1	名護タクシー	名護市宮里7-22-31	16台
	2	本社営業所	名護市大北2丁目14-22号	24台
	3	北部観光タクシー	名護市大東2-14-22	タクシー32台/ ハイヤー1台
	4	本社営業所	名護市大北3丁目19-3号	20
	5	宮里営業所	名護市宮里587-番地3	18台
	6	丸金交通	名護市大北3丁目19-3号	タクシー67台/ ハイヤー1台
	7	大地自動車交通	名護市宮里587-3	22台
	8	国頭タクシー	国頭村辺土名265	3台
	9	名護タクシー／三笠営業所	今帰仁村字仲宗根172	8台
	10	本部サンシー交通無線	本部町字山川147-1	8台
	11	本部タクシー	本部町字東554-1	15台
	12	金武タクシー	金武町字金武42	10台
	13	伊江島観光バス	伊江村字川平478番地の9	3台
	14	伊江島交通	伊江村字東江前460-5	4台
	15	風希ネットワーク(ハブタクシー)	伊平屋村字我喜屋2136	1台
			計	タクシー:251台 ハイヤー:2台

表:1-25 沖縄県内のタクシー運転手及び車両台数

	H30年	R1	R2	R3	R4
運転者数	8,448	8,028	7,139	6,964	6,735
車両数	5,177	5,145	5,102	5,073	5,116

出典:運輸要覧 令和5年(2023年)12月沖縄総合事務局運輸部

ウ. レンタカー

- ・ 沖縄総合事務局陸運事務所の業務概要によると、沖縄県内にレンタカー事業者は、1,274 事業者が営業しており、そのうち北部地域は 83 事業者(名護市 2、国頭郡 54、伊平屋村、伊是名村は島尻郡に含まれるため不明)となっている。

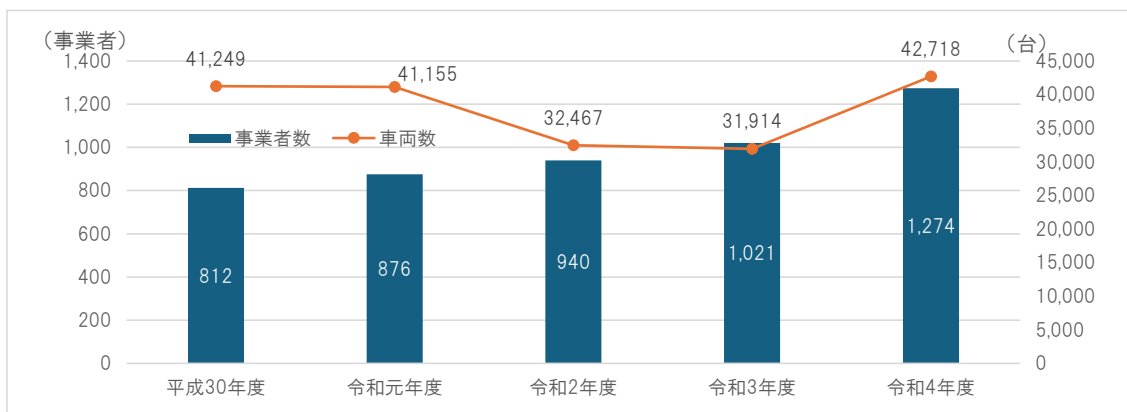
表:1-26 レンタカー事業者(自家用自動車有償貸渡業)令和5年(2023年)3月

地域別	事業者数	車両数					計
		乗用	貨物	特殊	乗合	小型二輪	
名護市	29	519	120	5	2	4	650
国頭郡	54	402	229	15	3	18	667
島尻郡	83	1,275	389	30	2	0	1,696
那覇市	243	9,134	512	32	20	64	9,762
うるま市	41	344	214	1	0	0	559
沖縄市	72	1,003	356	13	1	2	1,375
宮古島市	222	4,681	512	41	4	21	5,259
石垣市	108	3,335	294	15	7	20	3,671
宜野湾市	62	1,218	180	15	2	18	1,433
浦添市	62	841	365	77	2	14	1,299
糸満市	46	567	271	21	11	0	870
豊見城市	104	10,513	930	97	20	56	11,616
南城市	17	225	260	31	0	0	516
中頭郡	90	1,980	660	272	1	13	2,926
宮古郡	6	16	14	0	0	0	30
八重山郡	35	342	47	0	0	0	389
計	1,274	36,395	5,353	665	75	230	42,718

注)伊平屋、伊是名村は島尻郡に含まれる

出典:自動車登録検査業務電子情報処理システム(モータス)、軽自動車検査協会提供データ(軽二輪(125cc超~250cc以下)除く)

図:1-22 沖縄県内のレンタカー事業者数及び車両数の推移



出典:業務概要 令和5年版(2023版)沖縄総合事務局陸運事務所

表:1-27 北部地域のレンタカー事業者

No	事業者	所在地	所有台数
1	オリックスレンタカー／名護店	名護市許田505-1	—
2	オリックスレンタカー／ザ・ブセナテラスカウンター	名護市喜瀬1808	車両常備無し、 予約にて準備
3	トヨタレンタリース沖縄／名護店	名護市東江5-21-5	車両常備無し、 予約にて準備
4	ニコニコレンタカー／名護東江店	名護市東江4-2-6	2台
5	ニコニコレンタカー／名護バイパス大北4丁目店	名護市大北4-21-5	3台
6	ダイドールレンタリース／名護営業所	名護市大北5-22-5	—
7	ナゴ(75)レンタカー	名護市伊差川473	—
8	レンタリース名護449(大城オートサービス)	名護市宇茂佐の森5-2-1	8台(5台電気)
9	タイムズカーレンタル／名護店	名護市為又56-2	臨時休業中
10	ウネレンタリース(宇根自動車)／名護店	名護市宮里4-15-44	17台(本部・中部店 3店で使用)
11	オクマレンタカー／国頭村営業所	国頭村奥間1715-1	10台
12	もとぶかりゆしレンタカー／今帰仁営業所	今帰仁村字上運天335-10	1台
13	運天港レンタカー	今帰仁村字上運天241	—
14	よぎレンタカー	今帰仁村字上運天350-1	—
15	もとぶかりゆしレンタカー／本部営業所	本部町字崎本部5204	14台(ワゴン1~3台 (那覇営業兼))
16	オリックスレンタカー／沖縄本部港店	本部町字健堅1209-5	2021年閉店
17	本部レンタカー／本部町・美ら海店	本部町字浜元235	—
18	エアケイ(AIR-K)レンタカー	本部町字谷茶29-72	—
19	ウネレンタリース(宇根自動車)／もとぶ店	本部町字東456-1	17台(名護・中部店 3店舗で使用)
20	オリックスレンタカー恩納店	恩納村字前兼久269-2	—
21	オリックスレンタカー／リザンシーパークホテルカウンター	恩納村字谷茶1496	車両常備無し、 予約にて準備
22	オリックスレンタカー／ルネッサンスリゾートオキナワカウンター	恩納村字山田3425-2	車両常備無し、 予約にて準備
23	しまんちゅレンタカー	恩納村字名嘉真2288-162	—
24	伊江島観光バス	伊江村字川平478番地9	8台
25	TMプランニング	伊江村字川平310番地	8台(5台電気)
26	レンタル伊平屋	伊平屋村字我喜屋217-32	8台(5台電気)
27	そよかぜレンタカー	伊平屋村字我喜屋217-33	14台
28	伊是名レンタカー	伊是名村字仲田177-6	11台

※所有台数は店舗公式サイト・ネット情報

124台

※所有台数「—」は不明。

表:1-28 北部地域のカーシェア事業者

No	事業者	所在地	所有台数
1	NISSAN e-シェアモビ名護市役所第4ステーション	名護市港1丁目1番1号	4台
2	タイムズカーサンシャイン名桜	名護市東江4丁目24	1台
3	トヨタレンタカー名護店	名護市東江5丁目21-5	2台
4	RUSHレンタカー	名護市東江5丁目18-7 505	2台
5	NISSAN e-シェアモビロイヤルグランドステーション	名護市為又1220-8	1台
6	タイムズカーサ 名護店	名護市為又56-2	1台
7	ダイドーレンタリース名護営業所	名護市大北5丁目22-5	—
8	ニコニコレンタカー名護バイパス大北4丁目店	名護市大北4丁目21-5	1台
9	シトラスカーシェア/レンタカーオリエンタルホテル沖縄ステーション	名護市喜瀬1490-1	4台
11	NISSAN e-シェアモビホテルマハイナウエルネスリゾートオキナワステーション	本部町山川1456	1台
12	NISSAN e-シェアモビホテルロイヤルビューホテル美ら海ステーション	本部町石川938	1台
13	NISSAN e-シェアモビホテルゆがふいんBISEステーション	本部町備瀬1147	1台
14	シトラスカーシェア/レンタカー恩納瀬良垣706ステーション	恩納村瀬良垣706	2台
15	シトラスカーシェア/レンタカーハイアット瀬良垣アイランド沖縄ステーション	恩納村瀬良垣1108	3台
16	恩納村カーシェア/無人レンタカー	恩納村恩納5450-1	—
17	「スカイレンタカー・スマートサービス」沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパステーション	恩納村名嘉真ヤージ原259-1	—
18	シトラスカーシェア/レンタカーエネオス恩納ステーション	恩納村前兼久959	2台
19	タイムズカーシェアラトン沖縄サンマリーナ	恩納村富着66	1台

※グーグルマップ等より整理

※台数はネット検索

※所有台数「—」は不明

エ. レンタサイクル・レンタルバイク

- ・ レンタサイクル事業者は13事業者で、名護以北や離島に所在している。
- ・ レンタルバイク事業者は7事業者で、離島や本部町に所在している。

表:1-29 北部地域のレンタサイクル事業者

No	事業者	所在地	所有台数
1	ノレジオサイクルnoleggio-cicli	名護市瀬嵩182番地	9台
2	HUBCYCLE OKINAWA	名護市港1丁目15-14-1	35台
3	LUUPポートカヌチャリゾートクラブハウス	名護市安部156-2	2台
4	75MARINE	名護市港1丁目14-1 1階	ビーチクルーザーサイクル5台
5	国頭村観光協会	国頭村奥間1715-1	4台
6	エコステイ東村レンタサイクル&グランピング&CAFF	東村字有銘1033-2	—
7	福レンタサイクルー福茶屋	本部町字備瀬511番地	—
8	並木レンタサイクル	本部町字備瀬411番地	—
9	Rimoかりゆしホテル店	恩納村名嘉真2591-1	—
10	TMプランニング	伊江村字川平310番地	77台
11	レンタル伊平屋	伊平屋村字我喜屋217-32	6台
12	そよ風レンタカー	伊平屋村字我喜屋217-27	2台
13	伊是名レンタカー	伊是名村字仲田177-6	6台

出典:各公式サイト、電話確認

※所有台数「—」は不明。

表:1-30 北部地域のレンタルバイク事業者

No	事業者	所在地	所有台数
1	やんばるモータース	本部町字浦崎240-1	4台
2	レンタルトライクスパイダー	本部町字備瀬543	—
3	モトレンタルバイク	本部町字備瀬2043	—
4	TMプランニング	伊江村字川平310番地	6台
5	レンタル伊平屋	伊平屋村字我喜屋217-32	6台
6	そよかぜレンタカー	伊平屋村字我喜屋217-33	3台
7	伊是名レンタカー	伊是名村字仲田177-6	3台

※所有台数「—」は不明。

表:1-31 北部地域の電動キックボード事業者

No	事業者	所在地	所有台数
1	LUUPポートカヌチャリゾートクラブハウス	名護市安部156-2	13台
2	並木レンタサイクル	本部町字備瀬411番地	—
3	Rimo沖縄恩納村本店電動キックボードレンタル	恩納村名嘉真2199-1	20台
4	Rimoかりゆしホテル店	恩納村名嘉真2591-1	7台(電動)
5	TMプランニング	伊江村字川平310番地	4台

※所有台数は各店舗に電話で確認した数である。

※所有台数「—」は不明。

オ. フェリー・海上タクシー

- 北部地域では、各離島にフェリーが運航している。また、伊是名村～伊平屋村間は、1事業者の海上タクシーが運航している。
- 那覇から本部町渡久地港までは、1つの高速船が就航している。

表:1-32 北部地域のフェリー

名称	事業者	運行区間		所要時間	便数	定員	料金
		起点	終点				
フェリーいへやⅢ	伊平屋村	今帰仁村運天港	伊平屋村前泊港	約80分	2便	300人	2,480円
フェリーいぜん尚円	伊是名村	今帰仁村運天港	伊是名村仲田港	約55分	2便	350人	1,840円
フェリーいえしま／ フェリーぐすく	伊江村	本部町本部港	伊江島伊江港	約30分	4便	いえしま：626人 ぐすく：700人	790円
クインコーラルプラス ／クインコーラルS	マリックスライン	那覇市那覇港	本部港／奄美各島 を経て鹿児島港	約110分	1便／ 2日	クインコーラルプラス：604人、 クインコーラルクロス：655人	1,990円～4,980円
フェリーあけぼの／ フェリー波の上	マルエーフェリー	那覇市那覇港	本部港／奄美各島 を経て鹿児島港	約110分	1便／ 2日	フェリーあけぼの：678人、 フェリー波の上：707人	1,990円～4,980円

※運輸要覧より（沖縄総合事務局 運輸部）

出典：運輸要覧(沖縄総合事務局)

料金：各公式サイト

表:1-33 北部地域の高速船・海上タクシー

名称	事業者	運行区間		所要時間	便数	定員	料金
		起点	終点				
ニューウイングみんなⅡ	水納海運	本部町渡久地港	本部町水納港	約15分	4便 夏：8便	100人	910円
H・Yマリン	H・Yマリン	伊是名村仲田港	伊平屋村前泊港	約40分	予約制	10人	人数に応じて変動
海からくるとExpress (TAKUMA3)	第一マリンサービス	那覇市泊港	本部町渡久地港	約75分	6便	180人	3,000円

出典：運輸要覧(沖縄総合事務局)

料金：各公式サイト

出典：各公式サイト等から整理

第2章 行政・観光協会等の実態と市場分析

1. 国・沖縄県のDMOの位置づけ

(1) 国の政策における位置づけ

- 観光庁では、観光地域づくり法人(DMO)については、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを実現するための戦略を着実に実施するための法人としている。
- 令和5年3月(2023年3月)に閣議決定された「観光立国推進計画」では、観光地域づくり法人(DMO)を観光地域づくりの司令塔とし、安定的な財源確保の課題にも対処していく必要があるとしている。また、改定版では、「面的」という言葉が多用されている。
- 令和5年4月(2023年4月)に改正された「観光地域づくり法人の登録制度に関するガイドライン」では、旅行費の利便性向上及び周遊促進、観光地経営の高度化等のため、観光DXの推進の重要性が明記されている。

(2) 沖縄県の観光振興における位置づけ

① 沖縄県観光振興計画(第6次)での位置づけ

- 沖縄県観光振興計画では、観光は沖縄のリーディング産業として、今後もさらなる成長と発展が見込まれるとした上で、観光地マネジメントの必要性を上げており、そのための体制としてDMOや観光協会の基盤強化を図る必要があるとしている。

② 沖縄県内のDMO

- 沖縄県内では、登録DMO、候補DMOがある。(令和5年(2023年)9月 観光庁HPより)

【登録DMO】登録観光地域づくり法人

申請区分	DMOの名称	マネジメント・マーケティング対象区域
広域連携	(一財)沖縄観光コンベンションビューロー	沖縄県
地域連携	(一社)八重山ビジターズビューロー	石垣市、竹富町、与那国町
地域	(一社)那覇市観光協会	那覇市
"	(一社)沖縄市観光物産振興協会	沖縄市
"	(一社)浦添市観光協会	浦添市
"	(一社)北谷ツーリズムデザイン・ラボ	北谷町
"	(一社)座間味村観光協会	座間味村
"	(一社)くめじまDMO	久米島町

【候補DMO】観光地域づくり候補法人

申請区分	DMOの名称	マネジメント・マーケティング対象区域
地域	(一社)宮古島観光協会	宮古島市
"	(一社)北中城村観光協会	北中城村

出典:観光庁ホームページより

2. 市町村・観光協会等の実施内容

(1) 観光関連計画の整理

①各市町村の入域者数の集計

- ・ 各市町村の入域者数は、各市町村独自で集計しており、集計方法が各市町村で異なる。各施設の来場者数を合算している場合もあるため、実際の入域者数(ユニーク数)が把握できていない。
- ・ また、離島では、入域客数は乗船者数から独自の手法で算出している。そのため、沖縄県が公表している入域者数と整合が取れない状況である。

表:2-1 各市町村入域者数(令和4年度)

市町村	入域者数(人)	集計方法
名護市	2,737,094	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計
国頭村	865,211	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計
大宜味村	223,155	施設来場者、宿泊者の累計
東村	223,220	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計(R3年度)
本部町	2,746,957	海洋博公園入域者数 ※他にもホテル、宿泊施設、昼食利用、水納島利用者数などの項目あり。累計人数は無い
今帰仁村	590,216	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計(R3年度)
金武町	373,179	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計
宜野座村	1,230,991	施設来場者、宿泊者、イベント参加者の累計
恩納村	4,255,642	OCVB お出かけウォッチャーを使用
伊江村	60,074	乗船者数のみ(車両 12,762 台は含まず)
伊平屋村	16,045	運天港からの乗船者数(観光客数 18,044 人)
伊是名村	52,530	運天港からの乗船者数(観光客数 38,626 人)
合計	13,374,314	上記、北部 12 市町村の入域者数を合計した場合
沖縄県(参考値)	6,774,600	沖縄県の空港、港を利用し入域した人数

出典:各市町村の入域者数を纏めて作成。各統計資料は、資料編を参照

②各市町村の観光目標・課題・施策・目標値やKPI等

- ・ 各市町村の観光関連計画及び総合計画(観光関連計画等の内容がこれに踏襲されている場合)、観光関連事業予算書より、観光課題、目標、施策、目標値やKPI等について整理する。

ア. 各市町村の観光関連計画

- ・ 各市町村の観光関連計画及び総合計画より、課題や目標、施策、KPI の設定等について整理すると、各市町村の共通課題は下表のように大きく3つに分けられる。
- ・ 受入環境は、多様な旅行者の受け入れ体制の充実や景観づくり、案内板や離島アクセスなどがあげられた。
- ・ 受入基盤は、人材確保や人材育成のほか、雇用創出、情報発信、広域連携、危機管理体制、財源確保があげられた。
- ・ 資源活用では、自然環境保全と活用、周遊ルート等の造成、資源の磨き上げ、来訪者との交流があげられた。各自治体の主な将来像や目標は、滞在・周遊・消費を促進するための高付加価値なメニューの創出と、それらを提供するための継続的な地域づくりと地元への利益還元が掲げられている。
- ・ 主な方針や施策では、各市町村で各種コンテンツの創出のほか、共通課題と同じくして資源の磨き上げが多くあげられている。(以上 北部12市町村の観光振興関連計画の整理一覧 参照)
- ・ 目標値やKPI等の設定に関しては、宿泊者数や観光施設利用者数、各種満足度調査等の実績を基準値としている。また、個別の観光関連事業所等の実態は各市町村アンケート(Web含む)やヒアリングから状況を把握している。
- ・ 一方で特にデータの収集については、各施設やイベント等への滞在時間、立ち寄り箇所数等、移動や滞留といった人流に関する数値がまばらなく、施設利用者については各地で重複が発生するため、客の分別(振り分け等)と合わせて、より実態に沿ったデータの集積と目標設定については比較的困難な状況が見られた。
- ・ これまで、北部地域での観光施設への立ち寄り先は偏る傾向にあることや、北部地域内での滞在時間が現状として比較的短いことが課題とされており、周遊や消費促進に向けては、広域的かつ戦略的プロモーションが必要と考えられる。
- ・ プロモーション効果の享受には、広域連携によるデータ取得・蓄積・そのための手法やルール、条件(取得場所、時期や回数、ルート)を統一することで、より実態に合ったデータを共有する必要がある。

【北部地域 12 市町村の観光関連計画及び総合計画より得られた観光の主な共通課題】

受入環境	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な旅行者の受入体制の充実(修学旅行やインバウンド等) ・ごみ処理、道路の植栽等を含む良好な景観形成 ・看板や標識・案内板の整備 ・離島へのアクセス環境の充実
受入基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保、人材育成 ・雇用創出 ・観光振興計画等の推進体制の構築 ・各種情報発信(PR等) ・広域連携(各施設や拠点間、イベント時のネットワーク構築や関係市町村、事業者間連携等も含む) ・データ分析による戦略的取り組み(旅行者ニーズ調査の強化等) ・観光危機管理体制 ・各施設や管理、受入基盤整備のための財源確保
資源活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自然資源の保全と活用(ゾーニング、開発抑制等) ・自然・歴史・文化を活用したプログラムや観光周遊ルートの造成 ・観光資源の磨き上げ(ブランド化、商品開発、6次産業化等による資源価値の向上) ・来訪者との交流等によるファンづくり

【北部地域 12 市町村の観光関連計画及び総合計画より得られた主な目標や施策、目標値など】

主な将来像・目標

<ul style="list-style-type: none"> ・付加価値の高いメニュー(プロダクト、プログラム)の充実 ・インバウンドやMICE、スポーツ等様々な来訪者の受入基盤整備 ・プロモーションにかかる関係者広域連携 ・住民が誇りをもち、愛着ある住みよい地域 ・周遊、滞在観光による交流人口の増加と消費額の増加による地元への利益還元 ・観光従事者の向上と就業機会の充実 ・持続可能な自然・歴史・文化の保護と活用

主な方針や施策

<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合わせた多様なメニューやコンテンツの創出 ・広域連携によるニーズの把握及びデータ取得と分析 ・地域ブランドの育成とプロモーション(販路拡大、情報発信) ・関係者や産学官等広域的な体制の構築とコンセンサスの形成 ・一次産業の推進(域内調達率の向上、担い手育成) ・各施設や受入にかかるインフラ整備 ・人材育成(住民の観光教育、ガイドやコンシェルジュ、リーダー等の確保と育成) ・地域資源の管理とルールづくり(自然保護、モニタリング) ・ワンストップサービス窓口の設置 ・交通サイン、交通利便性の向上 ・各施策推進のための体制構築 ・五感に訴求できる景観や空間形成(原風景) ・危機管理体制の構築

目標値や KPI 等の設定に際しての基準値等

<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設数 ・観光施設利用者数 ・イベント入場者数 ・観光客満足度 ・魅力度 ・消費額 ・住民満足度 <p>・個別の観光関連事業所等の実態は各市町村アンケート(Web 含む)やヒアリングで概要の把握は可能</p> <p>・各施設やイベント等への滞在時間、立ち寄り箇所数等、移動や滞留といった人流に関する数値は各地で重複が発生するため、客の分別(振り分け等)と合わせて、より実態に沿ったデータの把握と目標の設定比較的困難な状況</p>

参考 北部地域 12 市町村資源の SWOT 分析(各市町村関連計画より抽出整理)

	好影響	悪影響
内部環境	<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然(海・山・川・星空) ・集落景観(フキギ並木、共同売店等) ・自然を利用したアクティビティ ・年中行事(花火や花博) ・特色ある伝統芸能 ・リゾートホテルが多様 ・海洋博公園 ・スポーツ施設・環境 ・人情(おおらか、人懐っこさ) <p>➤ 自然を活用した認知度向上によって自然保護活動とともに地域交流、地域づくりが期待される</p>	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中南部からの移動距離・時間が長い ・二次交通の未整備 ・ネット環境整備 ・キャッシュレスの普及不足 ・北部＝「やんばる」の認知度が低い ・観光人材不足 ・基幹人材不足 ・少子高齢化による担い手不足、人口減少 ・地場産品の域内消費が限定的 <p>➤ 観光関連従事者が正規・非正規とも不足しており、十分な対応ができていない</p>
外部環境	<p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産登録による知名度の向上 ・ジャングルリア開園による集客の向上 ・クルーズ船寄港 <p>➤ 知名度・集客機会が向上することで、滞在時間や日数、消費額増が期待される</p>	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域情報の収集が困難であることが起因する周遊機会損失 ・インフラ整備の遅れによる消費機会損失 ・交通渋滞による観光客及び住民満足度の低下 ・観光人材不足による消費及び交流機会損失 ・オーバーツーリズムの懸念 ・開発の進展による景観の阻害 ・生活環境、信仰や文化資源への介入 ・マナー・ルール周知不足による観光地の質の低下 <p>➤ 北部各地域の観光関連データの集積がないため、広域的なマーケティングやプロモーション、効果的・効率的な戦略が脆弱(体制、役割分担、資金、連携の不足含む)な状況</p>

※表項目は、名護市の観光振興基本計画をベースとした。

※自治体によっては観光振興計画等がない、または観光振興関連計画に下表各項目に該当する内容が別項目として整理されている場合もある(理念→方針として踏襲整理されている等)ため、該当すると考えられる箇所を抜粋整理した。いずれでも整理がない場合で、類似内容が総合計画等に整理されている場合は、当該計画等より関連・関係箇所を抜粋整理した。

※KPIについては、総合計画や観光関連計画等いずれにも明確な整理(直接的数値目標に該当する内容など)がない場合、「―」を記載した。

参考 北部 12 市町村の観光振興関連計画の整理一覧

市町村名・資料	名護市 ・第5次名護市総合計画 2020-2029 ・第2次名護市観光振興基本計画 2020-2024	国頭村 ・第5次国頭村総合計画 2022-2031 ・国頭村観光振興基本計画 2017-2027	大宜味村 ・大宜味村第5次総合計画 2016-2025 ・大宜味村第2次観光振興基本計画 2021-2030
観光の主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・名護市内への滞在促進 ・様々なツアーの受入体制充実 ・マーケティング・プロモーションの充実 ・観光振興の推進体制の確立・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な森林等を活かした環境保全と観光振興の両立 ・産業・歴史文化を活かした観光 ・スポーツツーリズムの推進 ・観光基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・大宜味村の統一したイメージ形成と情報発信(おおぎみブランド、やんばるブランド) ・雰囲気あるむらづくりと快適に過ごせる観光機能の充実 ・来訪者数でなく、観光消費の促進(多様なコンテンツ、滞在型観光や通年型観光への転換) ・観光推進体制の構築(大宜味村観光協会を中心とした推進体制の構築、広域連携、データ分析による戦略的取り組み) ・受入体制・おもてなしの充実(人材教育、育成、村民の愛着と自信醸成、観光危機管理対策)
将来像・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光地として付加価値の高いメニューが充実している ・外国人、MICE、スポーツといった様々なツアーを受け入れている ・北部の玄関口としての機能を果たしている(情報面や滞在面) ・観光振興のために市民と観光関連事業者、観光関連組織が連携し、協働体制が構築され、取り組みを通じて市民が誇りや豊かさ、住みよさを実感している 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、産業・歴史文化、スポーツの3本の柱をエコツーリズム、グリーン・カルチャーツーリズム、スポーツツーリズムとして推進 ・3本の柱の相乗効果を高めるための観光基盤の整備を行う。 ・全体を「くんじゃんツーリズム」として推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 村民が誇りや豊かさを実感する、持続的な観光まちづくりを推進する～交流人口の増加、就業機会の拡大につながる観光振興 2 大宜味村の魅力を発信し、ファンを大切にす～リピーターを大切にす観光振興 3 多産業への波及も見据えた取り組みを推進する～周遊観光、滞在型観光への転換
方針や主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な資源を活用した滞在メニューの提供 ・イベントの着地型コンテンツとしての見直し ・中心市街地の滞在促進 ・広域も含めた観光案内機能の充実 ・外国人受け入れ環境の充実 ・様々なツアーの受け入れ環境の充実 ・広域連携体制による受け入れ推進 ・観光人材等の確保・育成 ・危機管理体制の構築 ・継続的なデータの取得、分析 ・来訪者のニーズに応じたプロモーション手法の構築 ・地域のブランド育成・強化 ・ブランドを活かしたプロモーションの実施 ・地域(市民・事業者)の観光振興に対するコンセンサスの形成 ・市内の観光振興体制の強化 ・産学官連携体制構築 ・広域連携体制の充実 	<p>【主要な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境共生型観光の推進 ・一次産業、歴史文化資源の保全利用の推進 ・スポーツツーリズムの推進 <p>【上記を支える基盤としての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド強化、情報発信 ・滞在観光の推進 ・外国人旅行者対応の強化 ・村内インフラの整備 ・観光人材の育成 ・広域的な連携 	<p>【魅力の磨き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を磨き上げる村民主体の取り組み推進 ・“クガニーんちゅ”等を目指した取り組みの推進 <p>【癒しのツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者が楽しむコンテンツの開発 ・飲食業、土産物店の振興 ・交流施設の整備・活用 <p>【健康長寿ブランド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの構築、付加価値向上 ・効果的な情報発信 <p>【体制づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進体制の充実 ・人的交流の推進 ・観光危機管理体制の整備 <p>【重点プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宜味村観光協会が取り組むプロジェクト ・おじい、おばあと共に取り組むプロジェクト ・エリアの特性を活かして取り組むプロジェクト
指標となる項目・KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・平均滞在時間 ・平均立ち寄り箇所数 ・観光消費 ・満足度 ・事業者の地域経済効果の実感 ・入込客数 ・宿泊客数 ・市民の観光の認知度 ・魅力度 ・市民の理解度 ・市民の満足度 ・事業者の観光振興推進体制の確立・強化の実感 	<ul style="list-style-type: none"> ・入込観光客数 ・観光消費額 ・観光人材の雇用者数 ・宿泊数 ・民泊の受入数 ・スポーツ合宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種アンケート調査や統計調査より設定
指標となる数値の把握手法	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客アンケート ・市民アンケート ・事業者アンケート ・Web アンケート ・観光施設等へのモニタリング調査 ・宿泊事業者へのモニタリング調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存統計調査より村内主要施設の入込客数を集計 ・観光客を対象とした調査を毎年実施し実績値を集計(祝祭日) ・村内の観光人材雇用者数 ・若者の観光人材雇用者数(観光ガイド人材として新たに就業者の数を集計) ・村内宿泊施設の施設数 ・村内宿泊施設の客室数 ・集落散策ガイドブックを作成した村内集落数を集計 ・村内で合宿を行う県外スポーツ団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針に対するアンケート調査、統計調査を参照し把握予定

※表項目は、名護市の観光振興基本計画をベースとした。

※自治体によっては観光振興計画等がない、または観光振興関連計画に下表各項目に該当する内容が別項目として整理されている場合もある(理念→方針として踏襲整理されている等)ため、該当すると考えられる箇所を抜粋整理した。いずれでも整理がない場合で、類似内容が総合計画等に整理されている場合は、当該計画等より関連・関係箇所を抜粋整理した。

※KPIについては、総合計画や観光関連計画等いずれにも明確な整理(直接の数値目標に該当する内容など)がない場合、「―」を記載した。

参考 北部 12 市町村の観光振興関連計画の整理一覧

市町村名・資料	東村	今帰仁村	本部町
市町村名・資料	<ul style="list-style-type: none"> 第5次東村総合計画 後期基本計画 2021-2025 第3次観光振興計画 2022-2026 	<ul style="list-style-type: none"> 今帰仁村第五次総合計画 2023-2032 第3次今帰仁村観光リゾート振興計画 2019-2028 	<ul style="list-style-type: none"> 第4次本部町総合計画 2016-2025 第3次本部町観光振興基本計画 2020-2029
観光の主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 世界自然遺産登録や感染症への対応 観光客の滞在時間の延長や消費額の向上 エコ/グリーン/ブルーツーリズムの人材確保・育成 ニーズの把握と関係事業者や団体間での情報共有 	<p>【観光地づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然景観の活用と保全、魅力向上、周遊促進、オーバーツーリズム、乱開発の抑制、ゾーニング、経済活性化、雇用創出 <p>【経済効果を促す体制づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光ニーズ調査の強化、情報発信の強化、高齢者・外国人対応、近隣市町村連携、観光協会機能強化、人材不足、観光リゾート計画推進体制の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源が活かされていない →町民全体のおもてなし力の向上(「観光文化のまち」として町民一丸となった観光振興) ・増加・多様化する観光客への対応(インバウンド対応、広域連携等) →地域の観光資源を活かしたプロモーション(観光資源の磨き上げ、効果的発信) ・地域産業の競争力の弱さ →美ら海水族館を持つ優位性を最大限に活かす(町内への滞在促進のため、水族館の知名度・集客力を活かし観光振興に取り組む) ・インバウンド等に対応した受け入れ環境・広域連携の強化(持続可能な観光地形成のため)
将来像・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デスティネーションの整備 ・付加価値の高い観光商品づくり ・誘客のための情報発信・機会創出 ・観光推進体制の強化 <p>【5年後の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光従事者のステイタス向上とサステナブルなやんばる観光の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の摂理を学ぶ今帰仁 ・歴史とロマン香る今帰仁 ・老いも若きも躍動する今帰仁 	<p>①観光の魅力づくり</p> <p>地域資源を磨き、人材を育て、もとぶの資源の魅力を高める</p> <p>②プロモーションの推進</p> <p>観光資源がにつながるストーリーを展開し、もとぶへの来訪の機会をつくる</p> <p>③受入体制の充実</p> <p>町民一丸のおもてなしの環境を提供し、もとぶへの滞在の機会をつくる</p> <p>【重点プロジェクト】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 町民総ぐるみのおもてなしプロジェクト 2. 海洋博公園と連携したもとぶ観光のストーリーづくり 3. インバウンド歓迎プラン
方針や主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の整備(ハード):新たな拠点の整備等 ・観光資源の発掘:地域の歴史・文化資源の発掘 ・資源管理:受入容量や管理の在り方の検討 ・観光資源の活用(ソフト):各種プログラム開発 ・商品開発:加工品やご当地メニュー ・情報発信、イベント開催:SNS 発信等 ・受入体制の整備:動向・ニーズ把握、担い手育成等 ・関係事業者の相互連携:関係者・団体の相互連携 ・広域連携:周辺地域との協力・連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・守るべき場所・活性化する場所のゾーニング ・今帰仁城跡及び周辺集落の魅力の充実 ・自然環境の保全・利活用 ・ルール作りと観光客のマナー喚起活用 ・効果的な交通サインの設置 ・ワンストップサービスの設置 ・農漁業との連携 ・観光客向けの商品開発と事業者支援 ・多様化する観光客の受け入れ強化 ・体験事業者の拡大と連携強化 ・今帰仁村の魅力が伝わる民間主催のイベント支援 ・情報発信の強化 ・近隣市町村と連携した外国人観光客対応や観光 PR ・広域観光商品の造成 ・ガイドやリーダーの人材育成 ・推進体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・もとぶの魅力を満喫できるニューツーリズムの推進 ・美しい景観や恵まれた自然資源を活かした観光拠点の磨き上げ ・観光振興と環境の保全を両立させる持続可能な観光地域の形成 ・もとぶ固有の地域資源を活かしたプロモーションの推進 ・観光情報の発信・広報活動の積極的展開 ・北部広域圏で連携した広報・啓発活動の展開 ・町民・民間との協働による魅力的な観光地づくり ・地域のガイド・リーダー等の観光人材の育成 ・観光客目線で交通・観光案内の提供
指標となる項目・KPI	<p>【KGI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入域観光客数 ・1人当たり観光消費額 ・村民の東村観光による活気の実感 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致数 ・新商品数 ・観光体験者数 ・先進技術を活用した新規事業数 ・観光客の東村への満足度 ・観光振興計画の基本方針の進捗評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客満足度調査(古宇利、今帰仁城跡) ・今帰仁村の満足度 ・住民観光意識調査 ・ふるさと納税返礼品 ・修学旅行民泊(受入民家、生徒数) ・レジ通過数(今帰仁城跡、古宇利ふれあい広場、今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミ) ・村内ホテルの宿泊者数(観光協会会員主要ホテル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町を紹介したい人の割合 ・観光案内所訪問者数 ・定員稼働率 ・客室稼働率 ・町を目的とする人の割合
指標となる数値の把握手法	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務報告書実施アンケート ・Web サイト「ふるさとチョイス」今帰仁村のお礼の品を参照 ・観光協会情報参照 ※村内ホテルの宿泊者数について、統計方法は観光協会と調整が必要とのこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者・宿泊者アンケート ・観光協会集計 ・来訪者・宿泊者アンケート

※表項目は、名護市の観光振興基本計画をベースとした。
 ※自治体によっては観光振興計画等がない、または観光振興関連計画に下表各項目に該当する内容が別項目として整理されている場合もある(理念→方針として踏襲整理されている等)ため、該当すると考えられる箇所を抜粋整理した。いずれでも整理がない場合、類似内容が総合計画等に整理されている場合は、当該計画等より関連・関係箇所を抜粋整理した。
 ※KPIについては、総合計画や観光関連計画等いずれにも明確な整理(直接的な数値目標に該当する内容など)がない場合、「―」を記載した。

参考 北部 12 市町村の観光振興関連計画の整理一覧

市町村名・資料	恩納村 ・恩納村第6次総合計画 2023-2032 ・恩納村第3次観光振興計画 2017-2026	宜野座村 ・第5次宜野座村総合計画後期基本計画 2021-2025 ・宜野座村観光振興計画 2021-2025	金武町 ・第5次金武町総合計画 2016-2025 ・金武町観光振興基本計画 2020-2029
観光の主な課題	【立地特性からの課題】 ・自然海岸や森林、夕日等の自然及びリゾート地域にふさわしい景観形成 ・漂着ゴミ、道路の植栽マスの雑草、ポイ捨てへの対応と維持管理のための財源確保 ・公共交通機関の利用が不便なため、主要施設を経由する周遊バス等 【観光資源からの課題】 ・第1次産業との連携による村民所得向上 ・地域資源を活用した特産品及び体験メニュー等の開発 ・観光に対する村民の理解の必要性(おもてなし意識の向上) 【沖縄観光からの課題】 ・観光を担う人材の確保・育成 ・安全・安心な観光地の形成(防災訓練、ダイビングショップへの認証制度等) ・誰もが旅行を楽しめる環境づくり(ユニバーサルデザイン化等)	・通過地点で目的地となっていない ・点をつなぐような線の連携取り組みとなっていない(イベントや施設間波及の仕組み) ・地域の自然、環境を守ることを優先にした観光振興 ・宿泊施設が少ない ・宜野座といえば!という独自の観光メニュー、土産品等が少ない ・アフターコロナ、ウィズコロナに対する準備・対応 ・「道の駅ぎのざ」の駐車場が少ない ・観光事業に参加する事業者や村民を増やしたい。 ・西海岸に比べ、観光振興が遅れている東海岸の魅力づくりや仕組みづくり ・DMOにより、稼げる観光地域づくりの視点での取り組み ・観光客の視点に立った(外国人含)看板や標識、施設づくり	・エコツーリズムや体験学習型・参加型の観光の増加、人工海浜が整備等により、金武湾における海洋性観光リゾート振興事業を展開していく可能性が考えられる。 ・地域医療施設やスポーツ施設などの整備が行われており、医療・スポーツツーリズムの展開が必要。 ・自然を生かした観光リゾート拠点地区の形成、観光資源の発掘・充実及び施設のネットワーク形成による観光産業振興促進。
将来像・目標	風と光が流れ 時を忘れる村 恩納村 自然との共生、持続可能な地域経済の確保による村民生活の実現、観光客の満足度の向上	水と緑と太陽の里で、訪れる方も、住む村民もともにハッピーに住んでヨシ 訪れてヨシ のむらづくり	【金武町らしい世界水準】 ①金武町が有する豊かな自然環境の保護・保全を図りながら、これらの活用による経済発展を目指した持続可能な環境共生型の観光振興 ②医療施設・温泉・スポーツ施設・ホテルの集積を生かしたウェルネスツーリズム×スポーツコンベンションによる観光振興 ③戦前・戦後の歴史から培われた文化・歴史資源の活用による観光振興
方針や主な施策	【豊かな地域資源の活用】 (1)地域資源を活用した新たな観光メニューの開発／(2)リゾートウエディングの推進／(3)自然資源や歴史文化資源等を活用した周遊マップ等の整備／(4)地域資源を活用したメニューや特産品の開発及び恩納ブランドの創設／(5)各種イベントの開催／(6)域内調達率の向上及び販路拡大 【誰もが安全・安心で快適に過ごせる環境づくり】 (1)観光インフラの整備／(2)観光リゾート地にふさわしい景観の形成 (3)環境の保全及び育成／(4)観光施設等における危機管理体制の整備 (5)誰にでも優しい観光リゾート地の形成／(6)スポーツ合宿の誘致 【観光PRの強化及び人材育成】 (1)効果的なPRの推進とプロモーションの拡充／(2)情報提供機能の強化／(3)観光大使やサンゴ大使の任命／(4)観光産業に関わる人材の確保及び育成／(5)村民を対象としたふるさと学習や観光教育の推進	・宜野座の魅力掘り起こしと推進 ・魅力を伝えるプロモーション ・村民が積極的に参加できる観光地づくり ・推進体制の強化 ・人材育成 ・昔ながらの自然・文化を守りながらの観光振興 ・安心して関われる、安全な観光地づくり	・持続可能な観光地形成に関する取り組み ・観光地としての受け入れ環境・機能の充実 ・観光関連事業者への支援拡大、観光人材の育成 ・観光推進体制の構築 ・金武町の観光地ブランド形成に関する施策 ・観光資源の活用による受け入れ拡大 ・連携機能の強化
指標となる項目・KPI	・延べ宿泊者数 ・平均泊数 ・宿泊施設稼働率 ・宿泊施設客室数 ・宿泊施設収容人員 ・人口千人当たりの宿泊施設収容人員 ・1人当たり旅行費用 ・リピーター率 ・レンタカー利用率 ・修学旅行入込状況	【村民】 住みやすさ／村民の観光の観点からの満足度／村及び村民の活気 【観光客】 観光客の満足度／地元の人々の雰囲気／推薦度 【経済効果】 事業者の経済効果実感度／入込客数／一人当たりの観光消費額 【環境配慮・管理】 村民一人当たりの1日のごみ排出量／海域における赤土堆積量ランク	ネイチャーみらい館利用者数
指標となる数値の把握手法	・宿泊者数(延べ) ・体験学習利用者数 ・おんなの駅・なかゆくい市場来客者数 ・文化情報センター来場者数 ・恩納海浜公園ナビビーチ利用者数 【恩納村観光概況】 主要宿泊施設実態調査／県宿泊旅行統計調査(観光庁)／インターネットモニター調査 県観光統計実態調査／県観光要覧／県人口移動報告	・村民アンケート ・観光客アンケート(道の駅・宿泊施設等) ・事業者アンケート調査 ・統計調査(道の駅、宿泊施設等) ・観光客アンケート調査 ・金武区消防衛生組合より ・県環境部環境保全課 ・赤土等堆積状況調査	―

※表項目は、名護市の観光振興基本計画をベースとした。

※自治体によっては観光振興計画等がない、または観光振興関連計画に下表各項目に該当する内容が別項目として整理されている場合もある(理念→方針として踏襲整理されている等)ため、該当すると考えられる箇所を抜粋整理した。いずれでも整理がない場合で、類似内容が総合計画等に整理されている場合は、当該計画等より関連・関係箇所を抜粋整理した。

※KPIについては、総合計画や観光関連計画等いずれにも明確な整理(直接的数値目標に該当する内容など)がない場合、「―」を記載した。

参考 北部12市町村の観光振興関連計画の整理一覧

市町村名・資料	伊江村 ・伊江村第5次総合計画 2021-2030 ・伊江村観光振興基本計画 2018-2025	伊平屋村 ・第5次伊平屋村総合計画第2期伊平屋村総合戦略 2022-2031 ・第4次伊平屋村観光振興計画 2023-2032	伊是名村 ・第5次伊是名村総合計画 2022-2031 ・第2期伊是名村総合戦略 2022-2031
観光の主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 島へのアクセス環境の改善 観光振興のための取り組みへの村民参加のしくみづくり 旅行者の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症による様々な変化への対応: 自然災害や社会情勢の変化等が委員による産業の停滞に対する観光危機管理やBCP(事業継続計画)の視点 来訪者との関係構築: 定住人口の代替としての「交流人口・関係人口」の確保、観光振興による賑わい創出や観光客から移住者につながることなどへの期待 自然環境・景観・島の営みを守る観光のあり方の模索: 本村の一貫した価値観である「原風景の維持」と、価値を享受した観光客がその維持のために自らの労力やお金の投資ができる仕組みの検討、6次産業化の推進、体験型交流の深化、観光コンテンツを進めた関係構築とファンづくり 仕組みの構築: 一般住民を含む島の多様な主体による計画の策定から雇用・評価に至る共有協議の実施のため一体となった仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源の活用: 景観形成、展望台の整備、特産品開発等 観光振興の充実: 民泊事業や観光情報の発信・メディア調整、民泊事業や村負担以外の収入源づくり。観光案内板や標識等の整備 滞在・体験型観光地の形成: マリン体験、農業体験学習、観光メニューの形成、インバウンド対応、スポーツ合宿、観光協会や商工会等との協議と情報サイトの開設
将来像・目標	<p>【観光振興におけるポイントより】</p> <ul style="list-style-type: none"> 真夏・真冬の需要を呼び起こすことによる通年での旅行者受入の推進 教育旅行の動向や民泊の法改正等を踏まえた、教育旅行の維持・強化 北部地域来訪者の伊江村への引き込み 機能強化される公共施設を活かした新たな旅行者の取り込み 	<p>【島民の生活が豊かになる観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今あるものをもっと沢山売る／今あるものをもっと高く売る(利益率をあげる) 新しく売れるものをつくる <p>【島の自然環境を守り改善する観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境を守る・育てる／環境を活かす <p>【島の文化資源を維持・発展させる観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化を守る・継承する／歴史・文化を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境を生かした魅力ある観光地の形成 多様なニーズに対応した観光振興の促進 伊是名村の観光を発信し、観光ブランド化を目指した体制づくり 地域連携
方針や主な施策	<p>【文化・歴史】・新しい視点で楽しむ伝統芸能／・村民の日常は旅行者の非日常！ローカル文化観光／・心と身体で体感する歴史・平和学習</p> <p>【学び】・学びの充実感と達成感を味わう次世代教育旅行／・じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期島留学／・自然とともに暮らす充実感を味わうワークスーリズム</p> <p>【フラワー】・いつでもどこでも花を楽しめる島／・五感のすべてで花の魅力を堪能できる島</p> <p>【スポーツ、アウトドア、フード】・村民総出で支えるスポーツ合宿・大会／・伊江島ならではの楽しみがいっぱい！観光スポーツ／・お手軽・お気楽なのに本格派！？ふらっとアウトドア／・生きる知恵と技術が満載！サバイバルアウトドア</p> <p>【フード】・島民に愛された郷土のごちそうが食べられる島／・思い出に残る唯一無二の食体験</p> <p>【受け入れ環境】五感と記憶に訴える空間演出 (ほか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化体験プログラム、アクセス向上、飲食環境、体験学習 食材の島内調達率の向上、宿泊・飲食の連携強化、民泊の資質向上 新規事業・創業支援、島外事業者の誘致活動による雇用機会創出、食の魅力創出を担う人材育成とメニュー開発等 自然保護活動、花いっぱい運動、星空保護区の環境整備、自然環境適正利用マニュアル、環境モニタリング 「原風景らしさ」の明確化とブランディング、自然体験プログラム等 集落・屋敷周囲の石垣保存等、景観保全、伊平屋学の推進、島コンシェルジュ養成・活用等 案内板・説明版の充実、文化継承と観光活用の推進、文化芸術活動を通じた世代間交流や異文化交流 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な環境づくり 地域資源を活かした誘客活動 いげな島観光協会との連携 観光案内板や案内標識の設置 新たな体験・観光メニューの開発 いげな島農泊推進協議会への支援強化 観光情報サイトの開設
指標となる項目・KPI	<ul style="list-style-type: none"> イベント来訪者 修学旅行者数 合宿旅行者数 一般旅行者数 	<p>観光消費額／環境保全事業への執行額／「島への誇りが高まる」と回答する村民の割合／ワーケーション／起業件数／商品開発／担い手確保／観光コンテンツ／観光客数</p>	<p>一日当たりの施設利用人数(臨海ふれあい公園)／イベント等に参加した交流人口 景観形成団体への支援数／港湾施設整備数／各イベント等の開催数 担い手育成の支援・補助／離島体験学習・民泊等の体験件数 開発や販売強化の支援・補助件数／先進技術を活用した事業件数／情報提供媒体の数 特産品の新たな販売ルート／雇人数／案内標識の設置・修繕件数／体験観光メニューの新規創出件数／移住定住促進のための住宅整備数／民泊受入事業者数</p>
指標となる数値の把握手法	<ul style="list-style-type: none"> ゆり祭り マラソン大会 スポーツ大会 閑散期のキャンペーン 民泊体験泊による修学旅行 スポーツ合宿等 	<p>観光客アンケート／環境協力税／村民アンケート／ワーケーションの受入人数 女性、若者、島外の方々による起業件数／商品開発や販売強化の支援・補助件数 農林水産業の新たな担い手の人数／入域観光客数</p>	—

参考 北部 12 市町村の観光振興関連計画の整理一覧

市町村名・資料	<p>北部広域市町村圏事務組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部地域振興戦略策定業務報告書 北部地域新振興戦略 2022-2031 ・北部地域新振興戦略 前期 5 年計画 2022-2026
観光の主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域の観光客が偏在化による離島を含む広域的な周遊促進による滞在・消費促進（農業産出額全体比は高いが所得につながっていないこと、観光・農業・通信産業への選択と集中による北部振興事業効果の実質的波及も観光の広義的課題として存在）
将来像・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・稼ぐ力で活力を生み出す持続可能な地域を目指して（強みである恵まれた自然を産業振興に活用し、農林水産、情報通信を軸に域内循環連携を高める） ・やんばるの魅力に囲まれ住み続けたい地域を目指して（自然環境豊かな地域で強い結束力をもって互いに助け合い伝統文化を大事に社会づくりをしている／地域の魅力を磨き、多様な世代の住みたい、働きたい、訪れたい地域を目指す）
方針や主な施策	<p>【方針】「世界に誇る多様な観光資源の持続と質の高い稼げる観光地づくり」</p> <p>【施策】やんばるの森の世界自然遺産登録、名護東道路の全面開通、クルーズ拠点整備、テーマパークなどによる観光産業の活性化／ブランドイメージ向上／新たな価値の創造と域内循環の促進</p> <p>【展開】自然との触れ合いや体験による資源の高付加価値化／自然環境を生かしたワーケーションによる滞在促進／自然の価値を高める景観や環境整備／世界自然遺産の適正な保全と活用</p> <p>※横断的取り組み：DXなどの活用と地域商社・DMOを両輪とした域内外への市場拡大と所得向上、地域のブランド化に向け、かじ取り役となるトータルコーディネーター機能や仕組みづくり</p>
指標となる項目・KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・北部入域者数 ・3 離島入域者数 ・北部地域宿泊者数(延べ) ・スポーツコンベンション誘致件数 ・飲食・宿泊総生産額 ・宿泊・飲食サービスの従業員数 ・令和9年(2027 年)度まで住民・事業者・旅行者アンケートにて、「持続可能な取り組みが重要」という認識を 80%以上にする。
指標となる数値の把握手法	<ul style="list-style-type: none"> ・公共・非公共北部振興事業実績報告による ・沖縄県観光統計実態調査の入域者数比率により算出 ・沖縄観光要覧による ・沖縄県観光統計実態調査の入域者数比率により算出 ・沖縄県内総生産による ・アンケート調査による

※表項目は、名護市の観光振興基本計画をベースとした。

※自治体によっては観光振興計画等がない、または観光振興関連計画に下表各項目に該当する内容が別項目として整理されている場合もある(理念→方針として踏襲整理されている等)ため、該当すると思われる箇所を抜粋整理した。いずれでも整理がない場合、類似内容が総合計画等に整理されている場合は、当該計画等より関連・関係箇所を抜粋整理した。

※KPIについては、総合計画や観光関連計画等いずれにも明確な整理(直接の数値目標に該当する内容など)がない場合、「—」を記載した。

(2) 各市町村観光関連事業取り組み内容

- ・ 各市町村の観光担当部局で行っている観光関連事業について、「令和3年度やんばるの自然・歴史・文化周遊促進事業」で整理した、「やんばるの価値を高める営業活動」の6つのカテゴリを参考にするとともに、※に「イベント事業」のカテゴリを追加し、地域外へ発信する「情報発信・PR」、観光客の「受け入れ体制等」、それ以外を「その他」として分類した。
- ・ 各カテゴリへの振り分けは、観光関連部局より提供いただいた取り組み内容をもとに、下表の「各カテゴリ概要(考え方)」より判断した。

【分類】

情報発信・PR	1. マーケティング・ブランディング事業 ※
	2. プロモーション事業 ※
	3. 情報発信事業 ※
	4. 特産品の販路拡大事業 ※
受け入れ体制等	5. 着地型商品取扱事業(販売) ※
	6. イベント事業
その他	7. PJコーディネート ※
	8. その他

※「やんばるの価値を高める営業活動」の6つのカテゴリ

【各カテゴリ概要(考え方)】

1. マーケティング・ブランディング事業	・マーケティング:観光客のニーズを探るための市場調査や分析のこと ・ブランディング:観光客に対して地域の価値やイメージを認知してもらうために行う取り組み
2. プロモーション事業	・県内外のイベントや催事等に参加し、地域の魅力やイメージの向上に向けた取り組み
3. 情報発信事業	・地域の魅力やイメージ、商品などを広く伝えること等
4. 特産品の販路拡大事業	・現地販売やECサイト含めた特産品の販売及び販路拡大等
5. 着地型商品取扱事業(販売)	・地域で作られた旅行商品、修学旅行民泊等
6. イベント事業	・地域で実施されるイベント、お祭りやプロスポーツ受け入れ等
7. PJコーディネート	・予算確保のため企画書作成や情報共有等
8. その他	・上記いずれにも該当しない事業等(例:人材育成関連、各種補助金や指定管理料等)

【1. マーケティング・ブランディング事業】

- ・ 北部地域ではサクラやツツジ、ゆりなど各市町村が花を活用したブランディングを行っている。
- ・ ウェディング(恩納村)、芭蕉布(大宜味村)、星空(国頭村)など村独自の資源を活かしたブランディングも行われている。
- ・ 東村のピンアップルや金武町のタコライス、伊平屋村のもずく、伊是名のお米等の特産品の他、景観、歴

史なども含めると、北部 12 市町村でそれぞれの資源を活かし、ネームバリューを高めようとブランディングに取り組んでいる。

- ・ 人流データや消費額などを分析するマーケティングを継続的に進めている市町村は、予算書からは読み取れなかった。
- ・ マーケティングは現状を分析し、誘客につながる方法を検討する取り組みであり、ブランディングやプロモーション、情報発信、着地型商品、特産品の販路等、ベースとなる基礎情報が集約されることで、戦略立案に活用できると考えられる。

【2. プロモーション事業】

- ・ 各市町村では県内外のイベントや物産展に出展し、現地で観光情報の提供や商談、スポーツコンベンションの誘致等を含めたプロモーションが行われている。
- ・ 各市町村では、例として、東京のサンシャインシティ池袋で開催する「サンシャインシティ沖縄めんそーれフェスタ」や、「ツーリズムEXPO」といった各種イベントに出展し、「やんばる」の周知や誘客プロモーションを行っている。

【3. 情報発信事業】

- ・ 各市町村は、ホームページや SNS を活用した観光情報を発信している。
- ・ フォトコンテストなどのイベント等を通して市町村の魅力を発信している例もある。
- ・ SNS 等への記事の作成や投稿といった実際の業務は観光協会が担っている場合が多い。
- ・ 各種観光関連パンフレットは各市町村独自で作成している例が多い。
- ・ 北部広域市町村圏事務組合では、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」で 12 市町村の情報発信を継続して行っており、ある程度の情報が蓄積されている。
- ・ また、北部地域全体の「やんばるドライブマップ」を作成しており、PR イベント等でのニーズが高い。観光客にとっては、各市町村の域を超えた広域的な情報が利用しやすいと考えられる。

【4. 特産品の販路拡大事業】

- ・ 各市町村では、県内外のイベントや物産展に出展し、特産品の展示販売が行われている。

【5. 着地型商品取扱事業(販売)】

- ・ 北部地域では、各市町村で整備した公共の宿泊施設を有する例が多く、その宿泊施設を活用した着地型商品等がある。
- ・ 整備された施設は、指定管理制度を利用し、外部によって管理・利活用されている。
- ・ 花火大会や桜まつり等地域資源を活用した着地型商品の取り扱いが広がっている。※イベント事業とも同等扱いとする。

【6. イベント事業】

- ・ プロスポーツの受入や花火大会、桜まつりなど、県内外の観光客を視野に入れた大規模なイベントのほか、マラソンや自転車などのスポーツ大会や地域の祭り等も開催されている。
- ・ プロ野球やサッカーのキャンプは、3球団、6チームが北部地域で実施している。

【7. PJコーディネート】

- ・ PJ コーディネートは、事業予算を確保するための企画書作成の業務や協議会運営などの連携支援である。
- ・ こうしたコーディネートを担う人材確保については、地域おこし協力隊・地域活性化企業人の事業を活用して、専門人材を登用している例がみられた。

【8. その他】

- ・ ふるさと納税制度は、北部 12 市町村の全てが利用しており、納税者も年々増加していることから、特産品の販路拡大につながっていると考えられる。

※なお、各市町村のふるさと納税の取り組み有無については、提供資料とは別途で各市町村サイトより情報を得た。

表:2-2 各市町村観光関連事業取り組み内容の整理(令和5年度(2023年度)) ※各事業の振り分けは事業名を基に整理した。

項目		名護市地域経済部観光課	国頭村商工観光課	大宜味村企画観光課	東村企画観光課	今帰仁村経済課	本部町企画商工観光課
情報発信・PR	1. マーケティング・ブランディング事業 2. プロモーション事業 3. 情報発信事業 4. 特産品の販路拡大事業	・名護さくらのまち推進事業補助金 ・名護桜の会補助金 ・自転車活用推進事業 ・名護市シティプロモーション戦略事業 ・観光費(広報宣伝費、観光パンフ作成費、Wi-Fi機器保守委託料等) ・ナゴま〜と(EO サイト) ・販路拡大出展支援事業	・国頭村観光 PR 用写真撮影 ・国頭村観光・物産・芸能フェア ・やんばる3村観光 PR 活動 ・観光 PR・特産品販売促進 ・観光 PR・特産品販売促進 ・星空観光推進	・観光商工 PR イベント ・大宜味村観光協会事業	・東村観光誘客促進事業 ・観光ガイドマップリニューアル ・東村観光誘客促進事業	・今帰仁村観光パンフレット作成業務 ・今帰仁村 PR 事業	・花いっぱい運動推進事業 ・町まるごとテーマパーク強化事業
受け入れ体制等	5. 着地型商品取扱事業 6. イベント事業	・スポーツコンベンション誘致事業 ・地域商業グロウアップ支援事業 ・名護・やんばるツーデーマーチ運営補助金 ・ファイターズキャンプ支援事業 ・名護夏まつり補助金 ・名護桜まつり補助金 ・花の里づくり事業管理委託料	・与論町交流 ・森林セラピー・ネイチャーガイド事業 ・辺土名大通脈わいづくり ・プレミアム商品券 ・国頭村まつり ・トレイルランニング大会補助金	・やんばる民泊予約受け入れ ・観光商工 PR イベント ・大保ダム祭り ・大宜味村産業まつり ・地域イベント支援事業	・花いっぱいの運動推進事業 ・消費喚起プレミアム商品券 ・第41回東村つつじ祭り補助金 ・第45回東村夏祭り ・東村産業祭り補助金	・環境保全美化推進事業 ・観光力基盤強化事業 ・今帰仁村桜まつり集客支援事業 ・今帰仁村着地型観光推進事業 ・今帰仁村体験滞在型観光推進事業 ・やんばる物産展 ・今帰仁村桜まつり集客支援事業	・もとぶ観光地クリーンアップ事業 ・プランター設置事業 ・観光誘客周遊バス実証事業 ・伝統興行観光化事業 ・花火大会負担金 ・海洋祭り運営補助金 ・桜まつり運営補助金 ・全国トリムマラソン大会負担金 ・もとぶマイクロツーリズム推進事業
その他	7. PUコーディネート 8. その他	・地域活性化企業人活用事業 ・観光協会補助金 ・名護市商工会補助金 ・名護市観光産業支援事業 ・観光施設管理費 ・ふるさと納税	・地域おこし協力隊・地域活性化企業人 ・国頭村観光協会(指定管理) ・やんばる学びの森(指定管理) ・奥やんばるの里(指定管理) ・国頭村観光協会(指定管理) ・安田くいなふれあい公園(指定管理) ・やんばるパインアップルの丘安波(指定管理) ・国頭村観光物産センター(指定管理) ・ふるさと納税	・喜如嘉の芭蕉布管理運用事業 ・やんばる3村世界自然遺産推進協議会 ・やんばるの森ビジターセンター(指定管理) ・やんばる自然体験活動協議会 ・平南川ター滝駐車場(指定管理) ・ふるさと納税	・地域活性化企業人活用事業 ・東村商工会補助金 ・福地川海浜公園(指定管理) ・慶佐次ヒルギ公園(指定管理) ・つつじエコパーク(指定管理) ・ふるさと納税	・第3次今帰仁村観光リゾート振興計画中間見直し支援業務 ・今帰仁村商工会補助金 ・今帰仁村観光協会補助金 ・ふるさと納税	・本部町観光危機管理計画策定業務 ・観光協会補助金 ・本部町観光大使補助金 ・ふるさと納税

注:各市町村の取り組み内容を元に作成

項目		恩納村商工観光課	宜野座村観光商工課	金武町商工観光課	伊江村商工観光課	伊平屋村観光交通課	伊是名村商工観光課
情報発信・PR	1. マーケティング・ブランディング事業 2. プロモーション事業 3. 情報発信事業 4. 特産品の販路拡大事業	・恩納村観光誘客・おもてなし推進事業 (文化情報センター案内職員 2 名配置、美ら海花火大会、サンシャインシティ沖縄めんそーれフェスタ) ・恩納村観光協会補助金 (誘客促進 (ウェディング、イベント含む)、ミスナビィ、スポーツ及び観光推進)	・宜野座村観光協会補助金 (PR 事業等)	・金武町観光協会補助金	・ハイビスカス振興 ・ゆたっしやる島交流宣言 ・観光誘客整備事業 ・伊江島観光協会 ・観光・特産 PR 事業 ・伊江島特産品加工支援施設	・伊平屋村特産特産品販路拡大支援 (タイムスクエア物販)	・いげな島観光協会補助金 (PR 事業等)
受け入れ体制等	5. 着地型商品取扱事業 6. イベント事業	・看板等作成 ・恩納村観光協会補助金 (誘客促進 (ウェディング、イベント含む、ミスナビィ、スポーツ及び観光推進)) ・心ゆたかなふるさとづくり ・美ら海花火大会	・花の村づくり ・美ら島花火大会 ・宜野座村まつり ・漢那ダムまつり ・阪神タイガース受入事業	・プロスポーツ受け入れ事業	・伊江島ゆり祭り ・伊江村観光地周遊バス運行事業 ・観光・特産品 PR 事業 ・観光客向けプレミアム付き商品券 ・伊江島マラソン ・伊江島ゆり祭り	・誘客イベント推進	・観光地等クリーンアップ事業 ・伊是名村体験・交流観光連携指定管理業務 ・いげな尚円王まつり支援事業 ・いげな 88 トライアスロン大会支援事業
その他	7. PJコーディネート 8. その他	・観光案内フロアシステム保守委託 ・ふれあい体験学習センター (指定管理) ・真栄田岬休憩所 (指定管理) ・万座毛周辺活性化施設 (指定管理) ・恩納村海浜公園 (指定管理) ・ふるさと納税	・道の駅ぎのざ事業 ・ふるさと納税	・金武町観光協会補助金 ・金武町観光振興推進事業 ・ネイチャーみらい館 (指定管理) ・プロムナード (指定管理) ・ふるさと納税	・観光地クリーン事業 ・ホースパーク (指定管理) ・伊江村青少年旅行村 (指定管理) ・ふるさと納税	・伊平屋村観光協会補助金 ・米崎海浜公園交流拠点施設 (指定管理) ・商福連携拠点施設管理 ・伊平屋島起業家人材育成 ・ふるさと納税	・環境プロジェクト補助金 ・観光及び公園施設清掃業務委託料 ・ふるさと納税

注 各市町村の取り組み内容を元に作成

(3) 各観光協会の取り組み内容

- ・ 各市町村観光協会の取り組み内容を元に、実施事業及び事業内容を整理した。
- ・ 観光協会では、「着地型商品取扱事業」をはじめ、「プロモーション」や「情報発信」に多く取り組んでおり、プロスポーツの受け入れや修学旅行の民泊、県外イベント等行政との連携による実施や、独自事業として実施するものがある。

【1. マーケティング・ブランディング事業】

- ・ 恩納村観光協会と宜野座村観光協会では、人流データや市場調査分析が実施されている。
- ・ 「環境、社会、経済」の活性化及び持続可能な発展の両立を目指す、世界自然遺産ブランディング事業、地域美化事業、サンゴ保全事業等のように環境を保護・保全する事業が実施されている。
- ・ 観光情報のデータ作成や移住促進、特産品販売等を行うブランディング事業もある。

【2. プロモーション事業】

- ・ 市町村が連携し、東京の池袋や横浜の鶴見区等で観光 PR に取り組むイベント事業や、独自で県外各地（例：青森や兵庫、東京等）の観光フェアに出展するなど、各市町村でプロモーションが盛んに行われている。
- ・ 日本一早い桜まつりを PR する本部町は、サクラの枝を各空港へ送付する等、花を活用したプロモーションを行なっている。
- ・ 企業・団体及び修学旅行誘致活動として、修学旅行フェア等の説明会への参加や、スポーツチームへ訪問する等のプロモーションが実施されている。

【3. 情報発信事業】

- ・ 独自での情報発信関連事業では、ガイドブックやマップの制作、パンフレットの設置、SNS 発信等が行われている。
- ・ 観光の広告媒体を使用した情報発信として、都市モノルールや機内誌への掲載、県内 CM 等も行われている。
- ・ メディアの活用としては、写真の提供やラジオ出演、取材等が行われている。
- ・ 「情報発信」は各市町村観光協会が独自で実施しているものが多いが、各市町村が連携し、広域として PR できれば、より認知度の向上が期待できる。

※別途参考資料として、「情報発信事業、SNS 利用者数(フォロー数)」の整理あり

【4. 特産品の販路拡大事業】

- ・ ふるさと納税事業により、観光の返礼品の送付といった対応を行っている。
- ・ 金武町観光協会をはじめ、独自で EC サイトを持つといった販路拡大の取り組みも行われている。

【5. 着地型商品取扱事業(販売)】

- ・ 着地型商品は、ウェルネスツーリズムをはじめ、ツアーの磨き上げや、各モデルコースの造成等、各地域で商品開発に取り組んでいる。
- ・ 教育旅行民泊では、民家の説明会や日帰り体験、民泊中の環境教育プログラムの検討等の受け入れ環境づくりに取り組んでいる。

【6. イベント事業】

- ・ プロスポーツのキャンプ受け入れや市町村内の祭り、スポーツ大会、花火大会等、多くのイベントが実施されている。
- ・ 観光協会では地域差はあるものの、「イベント」を中心とした、「プロモーション」、「情報発信」、「着地型商品取り扱い」が主な内容となっており、マンパワーを必要とする業務が多い。
- ・ 観光協会の職員数については、少ないところでは4人、多いところでは19人となっており、人材不足が深刻化している協会もある。今後、観光客の増加も予測される中、観光協会の人材確保対策が必要である。

表:2-3 各市町村観光協会取り組み内容の整理(令和5年(2023年)度) ※各事業の振り分けは事業名を基に整理した。

項目		公益財団法人名護市観光協会	一般社団法人国頭村観光協会	一般社団法人大宜味村観光協会	NPO 法人東村観光推進協議会	一般社団法人今帰仁村観光協会	一般社団法人本部町観光協会						
情報発信・PR	1. マーケティング・ブランディング事業	<ul style="list-style-type: none"> 観光宣伝誘客・情報提供事業 (観光案内、ホームページ観光情報発信、観光パンフ作成配布、ポスター作成配布) 県外PR活動 (マスコミ取材協力、名護市親善大使、観光キャラクター活用、修学旅行誘致、ハーリー大会、さくらまつり、観光大使、プレミアム商品券) 情報発信 (HP更新) 	<ul style="list-style-type: none"> 国頭村ブランディング向上事業 (観光PR、特産品販売、移住促進) やんばる3村観光協会事務局運営事業 プロモーション活動(鳥取、茨城、観光・物産・芸能フェア) 旅行社商談 ガイドブックの制作 道の駅大型ビジョンの管理 	<ul style="list-style-type: none"> 大宜味村ブランディング事業 (飲食業、サービス業のデータベース作成) 大宜味村PR事業 (県外と絆ネットワーク協定締結) 地元情報発信サイト 「南の島の北の方通信」の運営 新庁舎動画撮影 ネコグッズ販売(基金) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度世界自然遺産ブランディング事業(沖縄県) 情報発信 (HP・SNS更新) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信 (HP運用・SNS発信(facebook、X、Instagram)、写真提供及び文書校正対応等実施) 観光商品開発販売事業 (御城印、PRグッズ(スイカキャップ・今帰仁Tシャツ等)の開発及び販売) 	<ul style="list-style-type: none"> プロモーション (ミス桜による国内プロモーション、青森県ヴァンラーレ八戸キャンプ誘致、兵庫県の花火大会、マラソン大会でプロモーション、神奈川県鶴見おきなわ祭り出展、桜切り花で全国発送) 各種メディア連携 修学旅行誘致 観光宣伝物印刷(町内マップ) ウェブ管理 						
	2. プロモーション事業							3. 情報発信事業	4. 特産品の販路拡大事業				
受け入れ体制等	5. 着地型商品取扱事業							<ul style="list-style-type: none"> 観光美化事業 (21ビーチのビーチクリーン活動、名護漁港クリーン活動、さくら育樹活動) 受入体制強化事業 (スポーツコンベンション受入支援事業、体験学習等の推進事業、名護城のさくら整備に関する事、2020海フェスタin名護、接待マナー講習会、バス乗車券販売事業、友好都市物産受入) 協力事業 (羽地ダム鯉のぼり祭り、名護夏祭り、エイサー祭り、ソールドおきなわ、やんばるソーデーマーチ、カリークリスマス、日ハム春季キャンプ、名護ハーフマラソン) 	<ul style="list-style-type: none"> 与論町交流事業 民泊事業 (修学旅行説明会参加、受け入れ体制強化、民泊説明会実施) 遺産周辺地域モデル事業 (民泊時の環境教育プログラム) やんばるの森電気バスネイチャーガイド手配及び窓口対応 (ガイド手配、取次、受付など) JALJTA セールスやんばるの森ネイチャーガイドツアーに係る国頭村公認ガイド手配受付業務 公認ガイド及び地域ガイドの育成と仕組みづくり (講座・講習会実施、ヒアリング実施、人材育成) 比地大滝を中心としたやんばるの自然と集落文化をつなぐサステイナブルツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客受入体制整備事業 (やんばる3村観光協議会にてイベント参加、自動販売機設置) ロケーションコーディネーター受入体制強化 世界自然遺産地域調査・フィールド管理事業 (おおぎみ案内人育成支援「黄金人プロジェクト」) キャンドルナイト企画 シークワサーグッズ、シークワサーカップの販売 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンツーリズム事業 (修学旅行民泊計画) エコツーリズム事業 ブルーツーリズム事業 指定管理業務 (東村ふれあいヒルギ公園、福地川海浜公園管理運営) 第2のふるさとプロジェクト事業(観光庁) やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出事業(観光庁) ダムツーリズム事業 沖縄・東村 世界自然遺産「奇跡の森やんばるの大地・湖・天空」 全てのフィールドを活用したコンテンツプログラム造成事業(東村・観光庁) 	<ul style="list-style-type: none"> ロケ支援事業 今帰仁村内のロケに対する各種支援(申請案内・地域調整・立ち合い等)実施 誘客イベント事業 (今帰仁グスク桜まつり) 観光推進事業 体験滞在型観光推進(企業向)着地型観光推進事業(学校向) 教育旅行民泊事業 修学旅行生を対象にした民泊体験及び日帰り民家体験サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興事業 マイクロツーリズム事業 (ガイドツアー) 町内サイクルツーリズム 海洋博公園周辺道路環境美化事業 花いっぱい運動推進普及
	6. イベント事業												
その他	7. PJコーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究 (名護市観光基本計画懇談会参加、地域ビジネス強化支援事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 国頭村旅先納税事務局業務 (ふるさと納税を利用した寄付制度) 	<ul style="list-style-type: none"> 平南川ター滝駐車場管理運営事業(フィールド管理)(指定管理) やんばるの森ビジターセンター情報発信施設の運営管理(VR、ドームシアター利用) 喜如嘉の芭蕉布管理 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度やんばる国立公園における公園管理のための地域連携推進業務(環境省) 旅先納税管理運営委託業務 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税事業 (観光返礼品対応) 							
	8. その他												

項目		一般社団法人恩納村観光協会	一般社団法人宜野座村観光協会	一般社団法人金武町観光協会	一般社団法人伊江島観光協会	一般社団法人伊平屋島観光協会	一般社団法人いげな島観光協会
情報発信PR	1. マーケティング・ブランディング事業 2. プロモーション事業 3. 情報発信事業 4. 特産品の販路拡大事業	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興事業 (人流データ調査等) サンナビプロジェクト (恩納村オリジナル切手、UVカットミルク、ミネラルウォーター、エコバックなど商品の販売。サンゴ保全募金プロジェクト) 県外プロモーション事業(サンシャインシティ池袋) 誘客促進事業 (県外主要旅行者へのトップセールス及び県外旅行博への参加) 情報化事業 (HP、SNS の運用及び発信強化) フォトコンテスト事業 (恩納村の新たな魅力発掘のため実施) ミス恩納ナビ活用事業 (コンテストの実施、ミスを活用したPR事業等) 琉歌大賞事業 (県内最大級の琉歌公募展。恩納村商工会が中心となり 32 年前に立ち上げた事業を当会にて引継ぎ事業継続。) 観光振興事業(新規商品開発) 	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査の実施と分析 プロモーション事業 (サンシャインシティ池袋、甲子園、大阪市内、二子玉川、鶴見) 企業・団体及び修学旅行誘致活動 (沖縄修学旅行フェア、スポーツチーム関係者訪問、企業向け展示会商談会) 観光広告媒体掲載 (都市モルレル、ソラシディア機内誌、ウェルネスマップ) 観光パンフレット設置(各観光施設) 観光宣言 (YOUTUBE、HP 更新、Google ビジネス、マスコミ・メディア協力対応) 	<ul style="list-style-type: none"> I Love Kin モニュメント制作 ターム君運営 (金武ターム君、イベント、テレビ、スポーツ歓迎などに出演) 沖縄地域観光物産展出展 山形県長井市物産交流事業 タコライス味ポテチップコラボ 情報発信業務 (Visitkin 情報更新、映像制作、イベント広報、県内 CM 広告、情報誌招聘企画・取材、県内外の物産展出展、情報誌掲載、県内ホテルパンフレット設置) 観光 PR 動画制作業務 	<ul style="list-style-type: none"> 県内外プロモーション (観光誘致宣伝事業 アウトドアジャパン札幌出展、沖縄修学旅行 SDGSEXPOinTokyo、沖縄修学旅行説明会 in 岡山、イーアス豊崎イベント) 東海ラジオ電話出演 	<ul style="list-style-type: none"> 離島ブランディング事業 県内外プロモーション (池袋めんそーれフェスタ、ツーリズム EXPO ジャパン、イーアス豊崎、タイムスフェア、修学旅行 SDGSEXPO、南城市視察、リゾテック) 	<ul style="list-style-type: none"> 屋那覇島キャンプ誘致 観光情報発信 (HP 更新、SNS 管理) 屋那覇島キャンプ誘致 (情報誌へ PR)
	受け入れ体制等	5. 着地型商品取扱事業 6. イベント事業	<ul style="list-style-type: none"> ロケーション撮影申請代行事業 (海浜ゾーンにおける商業目的な撮影届出申請を代行) 誘客イベント事業 (恩納村美ら海花火大会) スポーツ及び観光推進事業 (スポーツ大会・合宿支援) 体験学習事業 (県外修学旅行生を対象にした修学旅行誘致事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 受入整備(民泊、修旅プログラム、スポーツ合宿等) 阪神タイガース宜野座プロジェクト 地域資源を活用した滞在型旅行商品の企画立案(GINOZA アクションプラン 10 に紐づく事業計画) 村内周遊促進イベント (宜野座村オープンガーデン) イベント(ぎのざマルシェ、漢那ダムまつり等) アクティビティプログラム (BBQ、カヌー体験、レンタサイクル) 人材育成(講座企画、人材交流等) 	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興業務 (J リーグ・プロ野球キャンプの観客誘客事業) 地域活性化イベント業務 観光 PR ツール制作事業 町内ツアー・商品開発事業 (モデルコース開発、ガイド講習、) 宿泊施設管理・運営 KIN サンライズビーチ海浜公園 観光物産 PR 業務 (金武町スイーツと物産展、EC サイト金武町まるごとショップ運営)/ 	<ul style="list-style-type: none"> ゆりまつり実行委員 島あっちい 伊江島一周マラソン大会実行委員会 全国就学旅行研究会 パラバレー日本代表受け入れ 本島周辺 15 離島合同連絡会 グリーンツーリズムネットワーク総会 観光協会等協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 民泊事業 (民泊受入説明会・修学旅行受入民泊アレルギー講習会) イベント実施 (やんばる駅伝、いへやまつり、ムーンライトマラソン) ウェルネスツーリズム(講習会、モニターツアー実施) 海浜清掃(前泊港、軽石撤去) 島外研修(Eバイク、キャンプフェス)
その他	7. PJ コーディネート 8. その他	<ul style="list-style-type: none"> なびー塾運営事業(生涯学習) (ふれあい体験学習センターを活用したカルチャースクール(生涯学習)事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税対応 		<ul style="list-style-type: none"> 伊江港「島」案内所運営事業 新型コロナウイルス支援金等申請相談会 	<ul style="list-style-type: none"> ガイド養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> 伊是名地区体育館業務管理(指定管理) マリン体験備品管理 ふるさと納税事業 (システム管理、納税証明書発行、役場請求業務など)・各種協議会 (島内外で 14 協議会に参加)

【参考】「情報発信事業 SNS 利用者数(フォロワー数)」

- ・ 各市町村行政及び観光協会による SNS 情報発信について、各団体が発信している SNS の利用者数(フォロワー数)を整理した。
- ・ 最も利用者数が多いのは、北部広域が広域で情報発信している facebook(36,010 人利用)であり、次に恩納村観光協会が発信する instagram(11,300 人利用)が続く。

表:2-4 行政及び観光協会の情報発信利用者数(フォロワー数)(令和 6 年(2024 年)3 月 15 日時点) 単位:人

市町村	Facebook	Instagram	YOUTUBE	LINE	Tiktok
名護市	989	1,237	819	3,710	
〃 観光協会	1,205	2,406	-	-	-
国頭村	1,286	1,480	419	-	
〃 観光協会	1,007	1,416	8	-	-
大宜味村	807	-	-	587	
〃 観光協会	393	1,673	41	-	-
東村	1,626	1,233	228	1,003	
〃 観光推進協議会	1,072	674	103	-	-
本部町	2,739	-	100	1,203	
〃 観光協会	2,152	-	6	-	-
今帰仁村	-	207	-	1,703	
〃 観光協会	4,373	4,171	856	-	-
金武町	4,732	-	-	7,755	
〃 観光協会	1,342	-	432	-	113
宜野座村	1,992	-	-	3,535	
〃 観光協会	2,224	2,540	1,190	1,151	-
恩納村	-	-	463	3,309	
〃 観光協会	4,347	11,300	194	-	-
伊江村	5,496	561	1,240	-	
伊江島観光協会	882	-	4	-	-
伊平屋村	1,335	-	-	-	
伊平屋島観光協会	913	1,728	182	-	-
伊是名村	2,160	428	140	-	
いげな島観光協会	1,059	1,711	100	-	-
北部広域市町村圏事務組合 (ほつとやんばる)	918	-	-	-	
北部広域市町村圏事務組合 (沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト)	36,010	2,957	328	-	11

出典:各 SNS の利用者数

(4) 行政・観光協会・観光関連事業者向けヒアリング調査

①ヒアリング調査目的

- ・ 北部地域全体の現状や課題を踏まえ、北部 12 市町村がさらに連携していくために必要な組織などを把握するため、国・県・市町村行政・観光協会・観光関連団体・宿泊事業者・交通事業者・観光事業者などへヒアリングを実施した。

②ヒアリング調査内容

- ・ ヒアリング項目は、主に下記のとおりである。
- ・ なお、「ヒアリング回答概要一覧」には、下記のヒアリング項目に該当するか、あるいは関連する内容として、「取り組み内容」、「課題」、「DMO への期待」、「必要データ」、「DMO が連携すべき関係者」、「その他」の 6 つに分類した。
- ・ 今回のヒアリングで 6 つのカテゴリ項目としては直接的な言及がなかった場合、その旨記載した。
- ・ また、ヒアリング先からの要望により、自治体及び観光協会双方同席の上でのヒアリング実施と、同自治体でも、自治体と観光協会を分けて個別にヒアリングを実施したケースの 2 通りがある。
- ・ そのため、「ヒアリング回答概要一覧」には、自治体と観光協会同席の場合は、いずれかの担当による回答を得ており、該当先に記載した。

◆行政・観光協会

- ①市町村観光入域者数の現状とデータ取得方法
- ②市町村観光計画で推進している事業とその進捗状況
- ③市町村で観光振興に取り組むうえでのキャパシティ(人材、予算、機能、施設)不足等による課題
- ④12 市町村で取り組むべき業務
- ⑤DMO に期待する役割
- ⑥必要な観光データ
- ⑦連携を進めるべき関係者
- ⑧自由意見

◆観光団体など

- ①取り組み内容
- ②取り組み課題
- ③DMO への期待
- ④自由意見

③ヒアリングのまとめと北部地域の課題

ア. 北部12市町村（行政・観光協会）ヒアリングのまとめ

- ・ 北部12市町村行政と各観光協会ヒアリング回答を以下に集約、整理する。

◆観光に関するデータのとりまとめが必要

- ・ 県内外及び国別客層の消費額(地域の物産など)、人流データ(イベント時を含む移動手段、移動経路など)のほか、滞在特性がわかる広域的に統一されたデータ収集と分析が必要である
- ・ 認知度関連データがあれば何が知られているか、知られていないかが分かる
- ・ 収入、収益につながるようなデータの集積が必要である
- ・ 各種正確なデータが揃っておらず、実態を把握できていない

◆情報の集約・発信が不十分

- ・ 受け入れのルールを含めたエリア全体の情報発信が必要である
- ・ プロモーション(国内外)による認知度向上と誘客・消費の促進が必要である
- ・ 各地域の資源や強みを生かしたコンテンツに対するブランディング、戦略の作成が必要である
- ・ 滞在・周遊・消費の促進に向けた取り組みを進め、各情報の効率的な発信、PRが必要である

◆基幹人材やまとめ役が不足

- ・ 地域を大事にできる人づくりが必要である
- ・ 組織のトップは、旅行会社など専門人材が良い
- ・ 地域や国・県と直接調整ができる人材が必要である

◆業界全体の人手不足

- ・ 各業種で(宿泊、交通、旅行社など)従業員、ガイド、ドライバーといった現場の人材が不足している

◆二次交通の不足

- ・ 空港から北部地域へのスムーズな移動が困難な状況にあるため、二次交通の拡充が必要である(イベント時や新施設により、宿泊施設・駐車場が不足する)
- ・ 域内交通拡充と各ルールづくりによって地域住民負担の軽減が必要である

◆様々な協議会の役割の整理が必要

- ・ 各団体、組織の役割とメンバーが重複しており、負担が発生している
- ・ 新たな団体には負担金が発生するため、財源確保のためにも団体はまとめると良い

◆北部地域連携に関する内容

- ・ DMOとしての目的を明確にしたうえで、目的に合った専門家や業者との連携が考えられる
- ・ 大手旅行会社や北部地域の観光協会との連携は大事である
- ・ 北部地域ならではのツアー造成があると良い(新たなフィールドの掘り起こしとプログラム開発)

- 修学旅行や民泊などは、受け入れ調整など広域的に連携する必要がある
- 地域の物産などの消費を促すためにも「稼ぐ」ための連携が必要である
- 宿泊税の導入や配分などの検討を含めて、財源の確保が必要である

◆北部地域の課題

- 高齢化や事業継承者不足などによって農家民泊の受入家庭が減少している
- 長寿の方々との交流のための受け入れ環境や関連ルールが整っていないため、受け入れ側に負担が生じている
- 飲食店が不足しており、周遊と滞在の機会を損失している可能性がある
- インターネット環境が脆弱な状況である

◆DMOへの期待

【北部地域の課題解決に向けて】

- 人材不足の解消(人材派遣、人材育成)に向けた取り組みなどを進めてほしい
- 来訪者のみでなく、地域住民の二次交通の課題解決に向けて各事業者や関連組織団体(国や県、ほか行政など)などと調整してほしい
- 地域住民の負担軽減と満足度の向上のためにも、来訪者受け入れに関するルール作りとあわせて地元情報の発信をしてほしい
- 観光協会等のサポート(伴走、旗振り役、情報集約、国・県・OCVBとの調整窓口)をしてほしい
- ニーズ調査と分析、データマーケティングによって、地域資源のブランディング、プロモーションを進め、認知度向上を図ってほしい
- 商品となるツアーの造成とそれに伴う送客(離島周遊プログラム含む)をしてほしい
- クルーズ船客の受け入れ対応をしてほしい

イ. 各組織・団体ヒアリングのまとめ

- ・ 北部地域内の各関連組織及び団体ヒアリング回答を以下に集約、整理する。

◆観光に関するデータのとりまとめが必要

- ・ データを活用した観光地経営ができていない
- ・ 市町村別観光収入や平均宿泊数などの詳細把握ができていない
- ・ AIを活用した人流関連の将来予測ができていない
- ・ 入域観光客を国別年度別で抽出できていない
- ・ 宿泊施設のデータ分析ができていない
- ・ 地域情報の可視化ができていない(観光客の分散化、周遊観光への誘客などの戦略がたてられない)
- ・ 検索、SNS データの分析ができていない
- ・ 情報の集積はもちろん、常に情報をアップデートしていくことが必要である
- ・ 北部と沖縄全域では課題が異なるため、独自のデータプラットフォームが必要である

◆情報の集約・発信が不十分

- ・ 北部地域の特徴ある情報(共同売店や道の駅)について、点でなく、面に変えていけるような情報発信が必要である
- ・ 自然遺産登録による効果はあるものの、観光客の北部への周遊、分散化が十分でない
- ・ 観光客の満足度向上に向けたワンストップ窓口の設置が必要である
- ・ 消費促進のための商品開発と販売促進が不十分である

◆基幹人材やまとめ役が不足

- ・ スキルや専門知識を持った人材が不足している
- ・ 地元の各事業者(農産物等特産品事業者も含めて)やコミュニティとの連携や調整ができる人材が必要である
- ・ 地域が求めるのは高度専門人材ばかりでなく、現場が求めるものと専門知識とのギャップが課題である

◆業界全体の人手不足

- ・ 事業推進にあたっての人手が不足している
- ・ 観光産業は人文系も理学系も幅広いスキルが必要であり、専門知識、技術、言語力の向上、沖縄文化に関する知識習得や教育も課題である
- ・ インバウンド対応のための人手が不足している
- ・ DX、ICT 関連のツールを扱える人材が不足している(SNS マーケティングなど)
- ・ 高齢化も加え、慢性的な運転手不足により、外国人ドライバーの運転も要請中の状況である
- ・ 社会情勢による観光客の変化に合わせた対応が不十分である(団体客現象、SNS 活用による個人客の目的の細分化、アジア圏客の増加、オーバーツーリズム、従業員不足と働き方の変化、資質の高いコンテンツづくりと提供、デジタル化)

- ・ 高付加価値インバウンド誘客体制の整備が不十分である

◆二次交通の不足

- ・ 二次交通不足が続いており、那覇から名護、海洋博までのバスの本数は多いが、そこから先の交通情報も交通手段も不十分である
- ・ レンタカーステーションの設置や渋滞解消につながる道路整備などのインフラ整備が必要である
- ・ 交通拠点や各二次交通の乗り継ぎ地点がなく、名護以北への周遊が困難な状況である(ハブ化などが必要)
- ・ バス路線の減便や廃止などは運転手不足が要因となっている
- ・ ドライバー不足のため外国人ドライバーが国内で運転できるよう要請している
- ・ 那覇に集中しているクルーズ船寄港を北部へ分散させたい
- ・ バス利用者増に対する交通インフラ整備と、利用者データが必要である
- ・ 二次交通の決済手法について利便性が良くない

◆北部地域連携に関する内容

- ・ 地域素材を活かすため、目的やターゲットを共有し、連携していく必要がある
- ・ 北部地域に限らず、そのほか県内で自然を「売り」にしている地域と連携するとメリットがあると考えられる
- ・ DMO 運営には行政の継続的な補助金や委託金が必要であり、入域税の活用も含めて検討していく必要がある

◆DMOへの期待

【北部地域の課題解決に向けて】

- ・ 各地を繋げ、ツアープログラムなどに対する考え方や意見を聴取、データへの反映などを含め、全体をマネジメントする役割を担ってほしい(エリアサポートのような役割)
- ・ 観光庁と連携した財源の確保と必要人材を明確化してほしい
- ・ 財源確保のためにも、DMO の事業計画書に補助金に関する要項を記載し、人件費も踏まえた必要運営費を追加のうえ、実施計画に沿って実行し、稼ぐことから実施してみてもどうか
- ・ お金が落ちる仕組みを含めた戦略の提案ができる人材を確保してほしい
- ・ 既存地域カルテの活用と改善のための情報共有をしてほしい
- ・ 北部地域の実情の共有ができるよう、各地のデータを収集し分析のうえ、各業界や団体、商工会などと連携しながら商品開発を進めてほしい
- ・ 企画立案や事業実施に必要な地域間合意形成のための調整をしてほしい(二次交通関連事業者を含む)
- ・ 二次交通不足の課題に対しては、名護以北の動線の仕組みをつくってほしい
- ・ クルーズ船に関する情報を共有することで、二次交通やオプションツアーにつながれると良い
- ・ やんばるは広範囲な地域であり、エリアごとに売りも異なるため、データ取得とターゲット設定もしながら、それぞれに対する対策や戦略を立ててほしい(インバウンドへのPRを含めて)

- 北部地域住民に対し、「稼げる観光地」というビジョンの認識への醸成に取り組んでほしい
- 域内消費循環の向上のためにも、各地の農産物事業者を含めた調整や連携をしてほしい
- 各地域の横断的な情報(イベントから環境保全に関するプログラム開発、運営)を収集した予約、決済(デジタル通貨や共通ポイントなど)まで可能な観光コンテンツアプリの構築と、これを活用することによる情報発信の強化をはかってほしい
- 北部地域目線の交通枠を独自でつくり、二次交通の利用拡大のためにも「バスが基本的な移動手段」と位置付けてほしい
- 地域住民、高齢者にも利用しやすいコミュニティバスの運行実現に向けた連携をふやしてほしい
- DMO が設立する際の費用負担や目標数値を明確にするためにも KPI、KGI の設定をしてほしい
- 産学連携による共同研究を進めることも含めた DMO が望ましい

【北部 12 市町村自治体 ヒアリング回答概要一覧】

項目	名護市(観光協会同席)	国頭村商工観光課	大宜味村(観光協会同席)	東村企画観光課	今帰仁村経済課	本部町企画商工観光課
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 認知度向上のためのプロモーション 観光振興計画策定中 	<ul style="list-style-type: none"> アストロツーリズムの推進(星空ソムリエ) ネイチャーガイド、森林セラピーガイド育成等 スポーツツーリズムの推進(クーポン券) 	<ul style="list-style-type: none"> 条例化を視野にした、人材育成(目標:2年後の構築) エコツーリズムにおける安全対策の条例化 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなフィールドの掘り起こしとプログラム開発、(ダム周辺秘境ツアー、活性化起業人の活用) 観光拠点の整備(五味観光跡地、慶次次郎ラン局跡地利用)・PPP/PPFの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行生、社会人(法人研修含む)向けウェルネスの体験・滞在型民泊 	<ul style="list-style-type: none"> 町まるごとテーマパーク(夜市、まつり、飲食店会、ユーチューバーによる情報発信など) 周遊バス運行実証(実証後はホテル主体での実施を期待)
課題	<ul style="list-style-type: none"> 県外プロモーションによる認知度向上 市内への誘客プロモーション スポーツコンベンション 滞在・周遊・消費の促進 行政含めて人手不足状態 人手不足により宿泊施設の稼働コントロールが発生 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模イベント(国頭トレイルランニング等)時の、ホテル及び駐車場不足 東西方向の各施設間移動手段不足 	<ul style="list-style-type: none"> 検定や資格などによる関係人口の増加 受け入れルールづくりとゾーニング 公共交通機関が無い 村民に直接利益となる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ヒルギ公園の駐車場が若干不足 エコツーリズムガイドが今後不足 空き家や住居不足による農家民泊の受け入れ減 修学旅行の受け入れ調整(国頭、名護との連携が必要) 自家用車有償運送とあわせて交通マッチングアプリ等が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設不足 マリンスポーツ関連やゴミなどのルール テーマパークを見据えた域内バスの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 二次交通不足(海洋博をターミナルとしたやんばる周遊バスなど) 職員不足、人手不足で企画の推進ができない 正職員同等の人材
DMO への期待	<ul style="list-style-type: none"> 人材不足への対応(タクシー、バス、ドライバーも不足) 基幹的人材と人手は分けて考えるべき やんばる情報を一本化した窓口 	<ul style="list-style-type: none"> 二次交通の課題解決(空港からの交通手段不足、及び各地域内の移動手段がない) 北部全域のツアー造成と販売(食を含む富裕層向けメニュー等) DMO が造成するツアーによる誘客 	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れルールづくりと情報発信 美的景観づくりのための要請など 各種調査の連絡・情報窓口 行政負担の軽減 12 市町村の PR プロモーション体制 国との直接調整 広域活動のコーディネートやサポート、補填をするような役割 データを経済価値に換える仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 北部市町村それぞれの特徴(自然資源)を活かした地域ブランディング DMO の事業は既存団体(村観光推進協議会)でも取り組み可能 観光専門人材の派遣 人材育成(ホテル従業員、インバウンド対応) 	<ul style="list-style-type: none"> やんばる全体の PR やんばるのブランディング(やんばるブランドによる特産物コラボなどで知名度向上を図る) データ分析 	<ul style="list-style-type: none"> クルーズ船の対応 二次交通の対応(名護バスターミナル発着の「はとバス」など) 那覇の観光客をやんばるまで誘客 各データ分析と戦略の策定
必要データ	<ul style="list-style-type: none"> 消費額、人流データ(ライドシェアなども勘案) エリア別課題を整理したデータ 	<ul style="list-style-type: none"> 空港から公共交通機関を利用する観光客データ(国頭までの移動手段と移動経路) 	<ul style="list-style-type: none"> 大宜味村の認知度(認知内容) 物産消費額関連の現況など 	<ul style="list-style-type: none"> 客層、再来訪の状況 インバウンド客の推移(国別) 来村の交通手段 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊データ 入域者・人流データ 	<ul style="list-style-type: none"> OCVB おでかけウォッチャーなどのデータ
DMO が連携すべき関係者	<ul style="list-style-type: none"> 目的を明確にし、目的に合った専門家や業者など 	<ul style="list-style-type: none"> 大手旅行会社(JTB、HIS、JAL など)や北部市町村の観光協会 	<ul style="list-style-type: none"> 国 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自治体 観光関係人材育成機関 観光ツアー業者 地域活性化起業人(観光関連業者からの人材派遣) 	<ul style="list-style-type: none"> 交通、旅行、宿泊関連事業者を不可欠とした観光に強いマーケティングのプロ 	<ul style="list-style-type: none"> 美ら島財団 旅行社 OCVB からの出向
その他	<ul style="list-style-type: none"> 北部エリアでまとめて宿泊税を観光振興費用に充てるのも策 	<ul style="list-style-type: none"> DMO 事務局は、北部 12 市町村の観光協会連携による組織が望ましい トップ人材は、JTB、JAL、HIS 等の専門人材が良い キャッシュレスの普及、ターゲット設定が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制に、旅行会社などがいるとよい DMO 指定管理者制度などで事業者任せにしようがよい 新たな団体だと負担金が発生し、地域経営が厳しくなるため、新たな財源を産む方法を確立すべき(宿泊税など) 	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ客は、コロナ禍以降確実に増加 海浜公園に宿泊施設を整備予定 キャンピングカーを活用した食材消費ができないか 稼ぐための連携が必要(イオンとのパインの協定あり) 	<ul style="list-style-type: none"> 北部市町村での広域的 DMO の確立を実現するには、情報の一元化などメリットが大きいといった存在理由や方向性が同じである必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税を導入する場合は配分割合なども確認し、補助金などどう区別するか、先行事例として推進すれば、積み立て基金の活用と、後発他地域とでどのようにコンセンサスを取得していくか議論が必要 12 市町村全体で宿泊税導入に向けて動くとい

項目	恩納村商工観光課(観光協会同席)	宜野座村観光商工課(観光協会同席)	金武町商工観光課	伊江村商工観光課(観光協会同席)	伊平屋村観光交通課	伊是名村商工観光課
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リゾートウエディング ・地域特産物のブランド化 ・各種イベント ・国道 58 号の景観づくり ・サンゴ保全活動(赤土防止など) ・観光危機管理 ・スポーツ合宿 ・県外 PR ・人材育成 ・地域交通計画に組み込む方針 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興計画を中心に、KPI を満足度向上で計測 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギンバル地区の跡地利用開発 ・スポーツツーリズム ・ウェルネスツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行民泊 ・イベント対応 ・プレミアム付き商品券の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光 DX 化の推進を目指し旅客オンラインシステム構築を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点課題に対するアクションプラン ・旅館・民宿業の再生プラン ・特産品・土産品の開発プラン ・住民観光ガイドの育成プラン ・アクセス交通体制の改善プラン ・伊是名城跡周辺の利用促進プラン
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞 ・地域公共交通が無い(村内を周遊する手段がない、域外への買い物不便など) ・インターネットの速度が遅い 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通面から観光が脆弱と感じる ・村内に観光事業者が少なく兼業がほとんどを占める 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊、飲食施設が足りない ・二次交通(村内交通)が脆弱 ・宿泊施設の人不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・土産品などの消費単価、宿泊単価の把握 ・スポーツ合宿を展開したいが宿泊施設不足 ・パラリンピックバレーチームの受入環境整備 ・移住者向け住居不足 ・民泊の高齢化が進み運営が難しい状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足(民泊以外に手が回らない) ・島内交通手段は、コミュニティバスのみで、観光客にとっても不便な状況 ・本島テーマパーク立地予定地等からのアクセスに懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間宿泊施設収容能力が、現在 470 人/日から 300 人/日まで減少 ・やんばる地域の情報発信(SNS 含む) ・各地の特色を生かした旅行プランの構築 ・テーマパークの立地により交通渋滞が懸念されるため道路整備が必要
DMO への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通課題への対応 ・「やんばる」ブランドづくり ・やんばる地域の財源分析と自主財源確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部広域の中に観光協会のような組織をつくるってどうか ・各市町村のとりまとめ、調整機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通問題に対して交通関連事業者と行政間の調整 ・入域者数、人流データの収集と分析、アドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応 ・個人客への体験メニューの提案 ・やんばるの情報、観光のとりまとめ機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通の拡充(運天港から名護への直行便など) ・統一されたフォーマットでのデータ蓄積と取得利便性 ・伊平屋村の PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした観光振興 ・旅行業資格取得による収益向上 ・観光庁の補助メニューの活用 ・効果的な観光施策の検討と展開
必要データ	<ul style="list-style-type: none"> ・収入・収益につながるデータ 	<ul style="list-style-type: none"> ※観光協会に記載あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち寄り箇所、OCVB データの分析等 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部広域市町村のデータフォーマットの一元化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の旅行目的やニーズ ・来訪目的の判別が可能なデータ ・近隣市町村のデータ ・伊是名とのデータ共有 ・リピーター数のカウントができる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な観光入域者数の把握 ・旅行目的
DMO が連携すべき関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者やホテル事業者含めたすべての事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ※観光協会に記載あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行社 ・ホテル組合 ・農業、漁業 	<ul style="list-style-type: none"> ※ヒアリングでは特に言及なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内外交通事業者(船含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会 ・漁協 ・JA ・旅行者 ・地域の任意団体(文化団体、老人会、青年会など)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税については恩納、本部、北谷、宮古島と整合を取りながらコンサルに委託して進める方針 ・高単価で経済効果を高めることが観光客の意識、住民の意識を高めることになる ・サンシャインシティ池袋での PR は恩納村が独自で実績を蓄積してきた 	<ul style="list-style-type: none"> ※観光協会に記載あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「半農」複住など関係人口を増やす ・旅ナカのふるさと納税の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者とも連携してラム酒造所見学などを商品化して PR したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内外交通アクセスは関係者を交えて検討したい ・コミュニティバスでも観光地に行けるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が単発的で継続しづらい ・3 つの離島を魅力として発信したい

【北部 12 市町村観光協会 ヒアリング回答概要一覧】

項目	公益財団法人名護市観光協会(市同席)	一般社団法人国頭村観光協会	一般社団法人大宜味村観光協会(村同席)	NPO 法人東村観光推進協議会	一般社団法人今帰仁村観光協会	一般社団法人本部町観光協会
取り組み内容	・認知度向上のためのプロモーション	・星空保護区の推進	・コンテンツ造成 ・国・県内受入体制整備 ・環境相の流域計画策定(安全対策・地域と環境)	・体験型観光 ・民泊事業 ・キャンプ	・着地型観光、体験滞在型観光 ・誘客・PR 活動 ・ふるさと納税の観光分野の返礼品などの提供 ・イベント実行委員会参加 ・WEB や SNS 等での情報発信 ・パンフレットの制作	・町全体テーマパーク(滞在・宿泊・飲食) ・周遊バスの運行 ・クルーズ&エア
課題	・人手不足(人材:中長期的育成を含む/人手:生産性) ・県外プロモーション不足 ・市内誘客プロモーション ・スポーツコンベンション ・滞在、周遊、消費の促進	・星空ガイドの育成	・問合せの7~8割が「長寿」関連、自然関連は2割でインバウンド客が殆どの状況 ・ロケ地のコーディネート、コントロール ・村民皆で村の PR ・大宜味村の認知度向上 ・来訪者との交流	・ガイド人材の不足 ・キャンプ利用者増によるビーチの漂流ごみや路上駐車増加	・個人事業主が多く、統括団体もない状況で、個別で開発や商売を始められる(地域づくりの問題)	・夕食施設、夜のコンテンツ不足 ・タクシー、レンタカー不足 ・人材不足
DMO への期待	・お客様目線の需要情報の集約と分析(滞在需要の向上に向けて)	・星空保護区から宿泊増に向けた戦略作成(大人民泊など)	・PR のみでない販売活動 ・地域を大事にできる人づくり	・各地域の認知度の把握 ・「やんばる」の知名度向上 ・データ収集・分析と情報発信 ・二次交通課題への対応	・優先項目を絞り、自然を生かしたアドベンチャーツーリズムやウェルネス関連を「やんばるの取り組み」としてはどうか(全体のテーマ性を持つ) ・テーマパークのホテルと、自然と親和性のある民泊事業との連携	・北部地域全体の情報一元化窓口 ・サイネージの iPad 版 ・情報提供、発信 ・受け入れルール作り、マネジメント
必要データ	・北部のエリアごと宿泊客層 ・北部のエリアごとの周遊状況	・空港から公共交通機関を利用する観光客データ(国頭までの移動手段と経路)	・需要の把握と分析が可能なデータ ・データ販売を可能にできるシステム	・おでかけウォッチャーのデータ分析	・観光客の属性など正確なデータ ・12 市町村の簡易宿泊所を含む登録宿泊所の数	・観光協会会員以外の情報把握 ・ナビを使えないお客様への対応 ・クルーズ船客対応 ・案内看板
DMO が連携すべき関係者	※市に記載あり	※村に記載あり	・OCVB	・交通関連事業者 ・組織とメンバーの重複が多いため、スリム化し、連携可能な点は強化する	・個人事業主が多く、宿泊施設やマリ関連団体、漁業組合や民泊事業者との連携が必要	・商工会 ・飲食組合 ・名城大学
その他	・DMO の運営が軌道にのるまでは行政の助成金が必要だが利益を出しながら独自の運営が望ましい	・ブランド戦略のため、観光 PR イベントを活用したい	・村に昔からある強みを発信したい(一過性の流行りの内容でない)	・12 市町村の連携は必要不可欠なので、二次交通問題を優先に取り組んではどうか	・DMO はテーマを絞ってアドベンチャーツーリズムやウェルネスなどに取り組むと良い ・事務作業的な事業のみでは DMO の運営はうまくいかない ・人材不足への対応は、広域的取り組みとして行政で進めてしい ・DMO の目的が県、OCVB、市町村と内容が被らないよう、地域でできることは地域ですめるべき	・宿泊税は、県に準じた形で進めて、税の見える化が必要

項目	一般社団法人恩納村観光協会(村同席)	一般社団法人宜野座村観光協会(村同席)	一般社団法人金武町観光協会	一般社団法人伊江島観光協会(村同席)	一般社団法人伊平屋島観光協会	一般社団法人いげな島観光協会
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リゾートウエディング協会 ・農産物のブランド化 ・国道 58 号の景観づくり ・危機管理 ・スポーツ合宿 ・サンシャインシティ池袋 に加え ・有償ボランティアによるビーチクリーン ・村民向けガイドブック作成(サンゴの村宣言) ・村民の意識重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、伝統、文化、産業、食、スポーツ、自然に光をあて、これを生かした観光メニューの創出(URL より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチ運営 ・県外での PR から町への誘客イベントにシフト 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行民泊 ・イベント対応 ・プレミアム付き商品券の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税 ・米崎のキャンプ場の指定管理 ・DX 化の推進 ・SNS 等での発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・島民での美化活動
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足による稼働コントロール ・今後も宿泊施設が増えるが景観条例であり、規制効力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会が観光事業者としての役割を担っている状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・ギンバル～新開地の交通手段がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足(マーケティング、企画、提案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材、財源不足 ・観光施設、宿泊施設不足 ・観光客の満足度を上げるサービスとして、ウェルネス的視点とサービスの質が不十分 ・宿泊施設の設備不足(湯船がないなど)による県外客の満足度伸び悩み ・リゾート機能がなく、富裕層の誘客ができない ・島内移動は車のみで、来訪者にはコミュニティバスしかないが、その利用もしづらい状態 ・民泊可能家庭が減っているが、宿泊施設の不足もあり、団体客の受け入れもできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・民宿、民泊の減少 ・宿の減少で、大きなイベントを実施しづらい ・島内はレンタカーで足りているが、空港からの直行便がない(本島内各地から運天港路線の交通拠点などがあるとよい) ・富裕層に楽しんでもらえるコンテンツ、施設がない
DMO への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と観光協会の連携がとれていれば、蓄積される情報を DMO が活用し施策展開可能、それが DMO としての機能であるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・着地型商品開発は各市町村で行い、DMO は売り込み活動をしてほしい ・データ分析、儲かる戦略づくり ・地域の物産品の PR を含む個別客へのコンサルティング 	<ul style="list-style-type: none"> ・12 市町村各エリアでスタンスが異なるため、調整してほしい(例:クルーズ船) ・恩納村からの誘客 ・恩納～金武～宜野座の交通手段 ・OCVB お出かけウォッチャーの分析と戦略作成 ・「儲けられる情報」の整理 ・専門家との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・離島周遊プログラムの展開 ・人を呼び込む仕組みの提案 ・交通情報の発信 ・やんばる急行バスの拡充に向けた調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内交通の改善に向けた働きかけ ・島内交通の改善のための協働(名護～運天港の直通便などの調整/空港から3島むけ港直結の路線の調整) ・12 市町村の連携促進で、世界遺産、歴史文化等のテーマ設定し、離島までの誘客を図る(ツアー造成) ・コンテンツ情報拡散 ・予算内での県外などへの PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携(セミナーなどの実施) ・行政予算の確保 ・データ分析(分析結果でターゲットを明確にした) ・観光プログラムの造成と観光客のニーズ把握 ・やんばるの総合窓口としてのプロモーション活動(WEB 問い合わせが時々ある)
必要データ	<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーションによる効果検証(消費額など費用対効果、価格と需要の比較) 	<ul style="list-style-type: none"> ・誘客促進のため、交通事業者と手を組み、戦略的な計画立案を可能にできるデータ 	<ul style="list-style-type: none"> ・県や OCVB セミナーのアーカイブ化 	<ul style="list-style-type: none"> ※村に記載あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データの取得がないため、DMO がそのきっかりになるとよい ・観光客数 ・土産品などの需要 ・来訪者属性など 	<ul style="list-style-type: none"> ・人流、目的、発着地 ・観光消費額
DMO が連携すべき関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者やホテル事業者を含むすべての事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・各観光協会の代表 ・交通関連事業者 ・旅行関連事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析を DMO が担うのであれば、データに基づく専門人材 	<ul style="list-style-type: none"> ※ヒアリングでは特に言及なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内の宿泊、飲食業者、商工会など全てと連携したい(DMO に参加する場合、島は一つにならないといけない) ・重要なポストには事業者をしっかり巻き込んでいきたい(観光に関しては移住者がキーマン) ・既存組織の役職者でなく、若い人を積極的に活用してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然文化資源を活用したアクティビティ関連事業者など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値化モデル地域選定の活用(北部から総合事務局に提案して活用してはどうか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会独自財源として観光商品がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア分けとハブ化が必要 ・「投資と回収」の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ※村に記載あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行は引き続き継続する 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマパークによって周遊に影響がでるのではないか(道路渋滞の懸念) ・環境協力税をごみ処理施設の整備等に活用している

3. 北部地域の観光関連調査の整理

(1) 北部地域の観光統計実態調査

①調査目的

- ・ 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課が毎年度継続的に調査を行っている「観光統計実態調査」のデータにより、北部地域に訪れたとする回答者を抽出し、全県との比較をすることで、北部地域の実態を把握する。
- ・ 北部広域市町村圏事務組合では、平成 28 年度にて同様の調整を行なったが、その後、7 年が経過している。
- ・ 主な調査内容
 - ア. 北部地域に訪れる観光客入域者数と全県入域者数に対する訪問率把握
 - イ. 北部地域に訪れる観光客の「宿泊率」と「観光消費額」

②調査概要

- ・ 北部地域の入域者数や観光消費額などを分析することで、北部観光の位置づけを見える化する。
- ・ 今回の調査では、令和元年(2019年)と令和4年(2022年)のデータを沖縄県より提案を受けていた。
- ・ 令和4年(2022年)からアンケート調査方法が紙面回答からQRコードへと変わったことで、サンプル数が約6倍と大幅に増え、かつ提供されたアンケートの生データと、加重平均されている公表データに乖離があったため、単純比較は難しいと判断し、令和元年(2019年)のみの分析とした。

③調査結果概要

ア. 北部地域に訪れる観光客入域者数と全県入域者数に対する訪問比率把握

- ・ 平成 28 年度に行った観光統計実態調査では、北部に訪問したと回答者の比率は、県全体の 51.1%であったことから、以降、51.1%が北部入域比率係数の参考とされてきた。
- ・ 今回、沖縄県観光統計実態調査より、改めて北部の訪問比率を求め、最新データへと置き換える。

※注 沖縄県観光統計実態調査における年度の構成比や消費単価は、市場構成に合わせるため四半期毎の入域観光客数をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均によって算出するなど特殊な推計を行っているため、ローデータを用いた本調査分析の結果とは必ずしも一致しない。

表:2-5 訪問比率(平成 27 年度(2015 年度)、令和元年度(2019 年度))

年度	沖縄県観光客数(日本人)	訪問比率	北部地域入域者数(日本人)
平成 27 年(2015 年)度	7,938,000 人(6,266,000 人)	51.1%	3,201,926
令和元年(2019 年)度	9,469,200 人(6,978,800 人)	39.0%	2,721,732

【訪問比率】

- 北部地域全体(北部 12 市町村: やんばる)への訪問比率の実数は令和元年度(2019 年度)で 39.0%となり、単純比較は難しいが平成 27 年度(2015 年度)の 51.1%から低下傾向がみられた。
- 一方、調査全体に対する北部地域を周遊する延べ数としては北部地域全体での変化はあまり示されず、本部半島と西海岸では令和元年度(2019 年度)でそれぞれ 24.5%と 25.2%と両エリアへの訪問延べ数が多い状況である。
- また、令和元年度(2019 年度)の分析から北部全体の訪問実数を母数=100 とした各エリアへの訪問比率は最北部で 16.6%、本部半島で 62.7%、西海岸で 64.7%、東海岸で 20.1%となり本部半島及び西海岸と他エリアで大きな差がみられた。
- さらに訪問実数からみた北部全地域(最北部・本部半島・西海岸・東海岸)を周遊した割合(周遊率)は 3.9%となり、本部半島と西海岸の 2 地域を周遊した割合は 24.1%あるとはいえ、北部地域内の周遊率は大きくないことも分かった。
- 質を高めつつ北部地域への訪問者を増加させる取り組みも必要であるため、北部全体として連携し実数の訪問率を向上させ、一地域を訪れた観光者を他地域へ誘導することが必要である。そして各市町村または金武町・宜野座村・東村・国頭村など東海岸エリア等のような小エリアも連携して当該地域への訪問者数を増加させる取り組みを行うことで周遊率が高まり、北部全体と各市町村・エリアで役割を分担する考え方もあらためて重要であろう。
- 県が実施した観光統計実態調査における北部地域分析からの上記の考え方は、たとえば本部半島を訪問した観光者を最北部へ誘導する取り組みと、大宜味村が独自に魅力を発信する取り組み、国頭村が自然資源を生かした誘客の取り組み、大宜味村・国頭村・東村の連携、そして北部地域全体の知名度や魅力を発信し実数である訪問率を高める取り組みというように、北部全体と各エリアでの役割分担の必要性も読み取れる結果である。

表：2-6北部地域の入域率および各地域の訪問率(2019年度)

地域	訪問票数	全体割合	北部割合
全体	5,203	100.0%	-
北部地域	2,030	39.0%	100.0%
最北部	337	6.5%	16.6%
本部半島	1,273	24.5%	62.7%
西海岸	1,313	25.2%	64.7%
東海岸	409	7.9%	20.1%
中部西海岸	1,371	26.4%	
中部東海岸	713	13.7%	
那覇	3,214	61.8%	
南部	1,094	21.0%	
久米島	83	1.6%	
本島周辺離島	120	2.3%	
宮古島および周辺	662	12.7%	
石垣島および周辺	892	17.1%	

※北部地域全体の入域率は実数であり、2015年度計算は51.1%であった

※各地域の票数は延べとなり、実数を母数=100%とした割合である

例：沖縄を訪問した観光者の24.5%が本部半島を訪問している

例：北部を訪問した観光者の62.7%が本部半島を訪問している

※2019 年度調査参考

※個票のパターンを読み取り集計するため今後必要であれば他のパターンやコロナ後調査での算出も検討する

表：2-7北部入域率を用いた周遊率の例

訪問地域	周遊率
北部地域すべて	3.9%
最北+西海岸+東海岸	0.3%
最北+本部+西海岸	3.8%
本部+西海岸	24.1%
本部+西海岸+東海岸	4.7%

※北部入域者の周遊パターン(実数)

イ. やんばるに訪れる観光客の宿泊率と観光消費額

【宿泊率】

- 北部地域全体(北部 12 市町村:やんばる)への宿泊率の実数は令和元(2019)年度で 24.1%となった。ただ、北部地域の各エリアでの宿泊率は、全体サンプル(全体票数)に対して当該エリアで宿泊した比率であるので、北部にも那覇にも宿泊した個票を含んでいる。
- また、訪問宿泊率は、そのエリアを訪問した観光客が宿泊した比率であり、当該エリアを訪問し宿泊した個票から算出したものである。最北部エリアの宿泊票数は 66 で沖縄全体から見ると 1.3%に留まるが、最北部エリアを訪れた観光客の 19.6%は当該エリアに宿泊していることが分かる。本部半島では、6.1%と 25.1%、西海岸は 14.7%と 58.1%、東海岸は 2.0%と 25.7%のようになる。

表：2-8北部地域の宿泊比率(2019年度)

地域	宿泊票数	宿泊率	訪問宿泊率
全体	5,203	100%	-
北部地域	1,253	24.1%	-
最北部	66	1.3%	19.6%
本部半島	319	6.1%	25.1%
西海岸	763	14.7%	58.1%
東海岸	105	2.0%	25.7%
中部西海岸	626	12.0%	
中部東海岸	167	3.2%	
那覇	2,539	48.8%	
南部	221	4.2%	
久米島	40	0.8%	
本島周辺離島	33	0.6%	
宮古島および周辺	519	10.0%	
石垣島および周辺	830	16.0%	

※北部地域の宿泊率は全体の票数に対して北部で宿泊した比率である

※訪問宿泊率は、その地域を訪問した際に宿泊した比率である

例：本部半島を訪問した観光客のうち25.1%が本部半島に宿泊している

参考資料:推計入域観光客数

表：2-9北部地域の入域率を用いた推計観光客数(2019年度) (万人)

地域	全体割合	推計入域観光客数	備考
全体	100.0%	946.9	実数
北部地域	39.0%	369.4	実数
最北部	6.5%	61.3	延べ
本部半島	24.5%	231.7	延べ
西海岸	25.2%	239.0	延べ
東海岸	7.9%	74.4	延べ

※簡易的な推計で、外国人客を含む946.9万人をベースとしている

表：2-10北部地域の入域率を用いた推計日本人観光客数(2019年度) (万人)

地域	全体割合	推計入域観光客数	備考
全体	100.0%	697.9	実数
北部地域	39.0%	272.3	実数
最北部	6.5%	45.2	延べ
本部半島	24.5%	170.8	延べ
西海岸	25.2%	176.1	延べ
東海岸	7.9%	54.9	延べ

※簡易的な推計で、日本人客(県外客)の697.9万人をベースとしている

【観光消費額】

- ・ 北部地域を訪れた観光客の消費額として、一人当たりの観光消費額は全体の 98,732 円よりも 3,599 円高い 102,331 円となった。
- ・ この単価を令和元年度(2019 年度)北部入域者数(日本人のみ)2,723,000 人で計算すると、2,786 億円となった。
- ・ ただし、北部地域での消費した金額ではなく北部地域を訪れた属性を持つ観光客の金額となるので、北部地域で消費した金額を把握するためには別途の調査が必要となる。
- ・ また、令和元年度(2019 年度)の宿泊日数は、282 泊となり、平成 27 年度(2015 年度)の 304 泊より数値が減少した。

表：2-11観光統計実態調査を用いた推計観光収入と単価(2019年度) (円、万人)

地域	単価	人数	推計観光収入
全体	98,732	697.9	689,052,899,783
北部	102,331	272.3	278,639,548,697
全体/北部	1.04倍		

※観光統計実態調査における消費額単価と日本人客数を単純に掛け合わせた金額である

※純粋な北部地域の観光収入ではなく、北部地域を訪れた観光客の消費総額となる

表：2-12北部地域入域客の宿泊数

宿泊数	泊数
北部地域入域客	2.82
回答者全体	2.83

※2019年度の数値で、2015年度の北部は3.04であった

【北部地域に訪れた観光客の属性】

- ・ 北部地域入域者の特徴として情報源、同行者の属性を示した。情報源では「家族や友人知人等の紹介」や「旅行会社のパンフレット」「旅行雑誌」などの割合が全体と比較して高く、ビジネスの影響か、同行者の判断なのか「12 自分の意志外」が低い傾向がみられた。
- ・ 同行者の属性では全体と比較して「夫婦で」と「子供連れ家族で」の割合が高く、「1 人で」の属性が約半分の割合と低くなっている。

表：2-13北部地域入域客の特徴（情報源）2019年度

情報源	全体	北部
1：自身の経験	37.2%	39.8%
2：家族や友人知人等の紹介	19.4%	22.3%
3：TVや映画	3.7%	3.3%
4：旅行会社の店員の勧め	1.0%	1.0%
5：旅行会社のパンフレット	7.5%	10.1%
6：旅行会社のウェブサイト	4.2%	4.6%
7：旅行雑誌	5.8%	7.1%
8：旅行雑誌以外の情報誌	1.5%	1.4%
9：ガイドブック	4.0%	4.7%
10：自治体や観光協会のウェブサイト・	2.9%	2.5%
11：個人ブログ・インターネット掲示板	7.4%	6.9%
12：自分の意志外	28.4%	22.8%
13：特にない	2.8%	2.2%
14：その他	7.1%	8.4%
合計／複数回答	100%/5203	100%/2030

表：2-14北部地域入域者の同行者(2019年度)

同行者	全体	北部
1：1人で	24.5%	13.4%
2：夫婦で	19.8%	22.6%
3：子供連れ家族で	16.3%	22.6%
4：三世代家族で	4.2%	6.4%
5：その他家族で	5.8%	6.7%
6：友人・知人と	11.8%	12.5%
7：恋人と	2.7%	2.9%
8：仕事仲間と	10.5%	9.4%
9：地域の団体・サークル	3.0%	2.4%
10：その他	1.6%	1.1%
合計	100.0%	100.0%

- ・ 北部地域入域者の来訪回数では「初めて」が多くなり、「20 回目以上」が少し低い割合を示した。
- ・ これは前回の平成 27 年度(2015 年度)調査の北部地域入域客クロス分析と同様の結果となったが、20 回以上のリピーターは石垣や宮古への渡航、初めて沖縄を訪れた観光客は美ら海水族館や古宇利島など著名な観光地を訪問したという推測も立てられる。

表：2-15北部地域入域客の特徴（来訪回数）

沖縄来訪回数	全体	北部
1：初めて	13.4%	20.0%
2：2回目	15.3%	17.4%
3：3回目	12.2%	13.3%
4：4回目	9.2%	8.3%
5：5～9回目	24.2%	21.4%
6：10～19回目	12.9%	10.2%
7：20回目以上	12.7%	9.4%
合計	100.0%	100.0%

- ・ 北部地域入域者の旅行参加形態では全体と比較して個人旅行の割合が少なく、観光つきパック旅行や団体旅行の割合が若干高くなっていることがわかる。

表：2-16北部地域入域客の特徴（参加形態）

参加形態	全体	北部
1：団体旅行	8.4%	9.4%
2：観光つきパック旅行	6.8%	8.7%
3：フリープラン旅行	27.3%	30.5%
4：個人旅行	57.6%	51.5%
合計	100.0%	100.0%

- 北部地域入域者の活動内容では全体と比較して「観光地めぐり」や「沖縄料理を楽しむ」割合が高く、那覇空港から離れていることから周遊性が必然的に高い結果であろう。
- ただ、北部地域での活動内容ではなく北部地域に入域した観光客の特徴とはいえ、北部地域入域客は全体と比べて周遊性が高い特徴を持っているので、各地域の意向に沿った情報提供や沖縄料理を楽しめる場所を提供する等の取り組みで、さらなる北部地域内の周遊も期待できる可能性がある。

表：2-17北部地域入域者の活動内容(2019年度)

活動の内容(2019年度)	全体	北部
1：観光地めぐり	59.9%	74.3%
2：保養・休養	28.2%	30.2%
3：海水浴・マリンスポーツ	23.5%	25.8%
4：ダイビング	5.1%	3.7%
5：ゴルフ	4.1%	4.2%
6：釣り	1.6%	1.5%
7：スパ・エステ	2.8%	3.6%
8：スポーツ大会等	2.9%	2.8%
9：エコツアー	4.3%	4.1%
10：伝統工芸・芸能体験	5.6%	7.8%
11：ショッピング	24.2%	29.4%
12：戦跡地参拝	6.7%	11.1%
13：沖縄料理を楽しむ	40.0%	47.1%
14：イベント	2.8%	2.3%
15：伝統行事	1.3%	1.8%
16：コンサート	1.7%	0.7%
17：新婚旅行	1.3%	2.2%
18：ウェディング	2.1%	2.7%
19：帰省・親戚等訪問	4.5%	4.1%
20：友人・知人の訪問	7.2%	6.9%
21：会議・研修	8.4%	6.0%
22：仕事	12.7%	7.9%
23：プロスポーツキャンプ見学	2.4%	3.1%
24：空手	0.1%	0.0%
25：その他	5.1%	4.6%
合計／複数回答	100%／5203	100%／2030

※北部での行動ではなく、北部を来訪した人の特徴という意味である

- 北部地域入域者が利用した交通機関では、全体と比較してレンタカーの割合が高く一般タクシーの利用割合が低いことがわかる。
- 県内航空機利用及び船舶利用については、石垣や宮古など、そして渡嘉敷や座間味などを訪問した観光客が沖縄本島で北部地域を訪問する可能性が低いことを示していると考えられる。
- また、北部地域入域者の自転車利用割合が低いことも示されている。

表：2-18北部地域入域者利用の交通機関

交通機関	全体	北部
1：路線バス	11.3%	6.8%
2：観光バス	13.4%	16.8%
3：貸切タクシー	3.5%	3.3%
4：一般タクシー	23.3%	15.7%
5：モノレール	26.9%	22.9%
6：レンタカー	57.9%	72.4%
7：自家用車・法人車	7.3%	5.5%
8：航空機（県内）	12.4%	5.0%
9：船（県内）	11.9%	2.9%
10：自転車	3.6%	1.1%
11：その他	3.2%	1.8%
12：無回答	0.4%	0.1%
合計／複数回答	100%/5203	100%/2030

※北部での利用ではなく、北部を来訪した人の特徴という意味である

- 北部地域入域者が持つ再訪意向は、今後5年間で1回がもっとも多く全体と比較しても高い割合となった。さらに5年以降に再訪する意向も全体と比較して多少高く、6回以上で全体と比較して低い割合となっている。
- また、北部地域入域者が感じるおすすめ度(人に勧めたいか)では全体と比較して大きな差はなく特徴がない結果となった。

表：2-19今後5年間で何回沖縄旅行するか(2019年度)

再訪意向	全体	北部
1：1回	23.7%	28.0%
2：2回	22.9%	22.9%
3：3～5回	27.8%	25.3%
4：6回以上	16.0%	11.9%
5：5年以降	7.1%	9.5%
6：行かない	2.5%	2.4%
合計	100.0%	100.0%

※北部を来訪した人の意向という意味である

表：2-20北部地域入域者のおすすめ度(2019年度)

人に勧めたいか	全体	北部
1：ぜひ勧めたい	54.0%	55.4%
2：勧めたい	39.9%	39.7%
3：どちらともいえない	5.7%	4.6%
4：勧めない	0.4%	0.3%
合計	100.0%	100.0%

- その他の属性である性別、年齢、世帯年収では全体と比較して差がない結果となっているので参考としてクロス表を掲載する。

表：2-21北部地域入域客の特徴（性別）

性別	全体	北部
女性	50.1%	53.3%
男性	49.9%	46.7%
合計	100.0%	100.0%

表：2-22北部地域入域客の特徴（年代）

年代	全体	北部
1：10代	0.6%	0.6%
2：20代	7.6%	8.5%
3：30代	15.8%	16.0%
4：40代	22.7%	23.0%
5：50代	23.2%	21.6%
6：60代	20.3%	19.4%
7：70代	8.7%	9.8%
8：80代以上	1.0%	0.9%
合計	100.0%	100.0%

- 平成 28 年度(2016 年度)のやんばる観光連携事業における沖縄県観光実態調査北部分析にならって、令和元年度(2019 年度)のローデータで北部地域入域客のクロス分析を行った。
- この既存調査活用のクロス分析でもっとも有意義なデータは北部地域を訪れた観光客と宿泊率の実数を経年で把握できることにある。
- また、北部地域に来訪した観光客の個票を分析することで北部地域の限られた区分であるが周遊率の実数把握も可能となる。
- その他の属性からの特徴は「北部地域を訪れた観光客の特徴」という意味で参考に留めるべき部分もあるが、「RESAS 地域経済分析システム」や、「おでかけウォッチャー」を活用した沖縄観光コンベンションビューローによる「おきなわ観光地域カルテ」を補完し、北部地域で共有することができる定期的な他機関による調査という位置づけになるだろう。
- なお先述のとおり、最新である令和 4 年度(2022 年度)の調査はコロナ禍でもあり、さらに対象と場所等を変えず方法は配布及び郵送回収から空港待合室などで掲示した QR コード読み取るオンライン回答に代わり、サンプル数が 5,203 票から 31,653 と約 6.1 倍となっているため 2019 年度調査との単純比較は難しいことから、今回は分析対象から外した。
- 令和元年度(2019 年度)と令和 4 年度(2022 年度)では質問項目も一部変更されているが、今後は令和 4 年度(2022 年度)をもとにして令和 5 年度(2023 年度)以降も引き続き経年変化を把握することができる。

(2) 主要ホテルの稼働状況の把握

① 沖縄振興開発金融公庫データ

- ・ 沖縄振興開発金融公庫は、沖縄県内のホテルの稼働状況について調査を行っており、「県内主要ホテルの稼働状況」として公表している。
- ・ 本データは、データの二次利用が禁止されているためローデータの入手はできない。
- ・ 利用可能なデータは公開されたデータのみで、北部地域については、北部地域で調査対象となっている本部町周辺のホテルと恩納村周辺のホテルに限られている。
- ・ 公開内容には、客室単価や客室稼働率の情報がある。

図:2-1 本部町周辺ホテル稼働状況

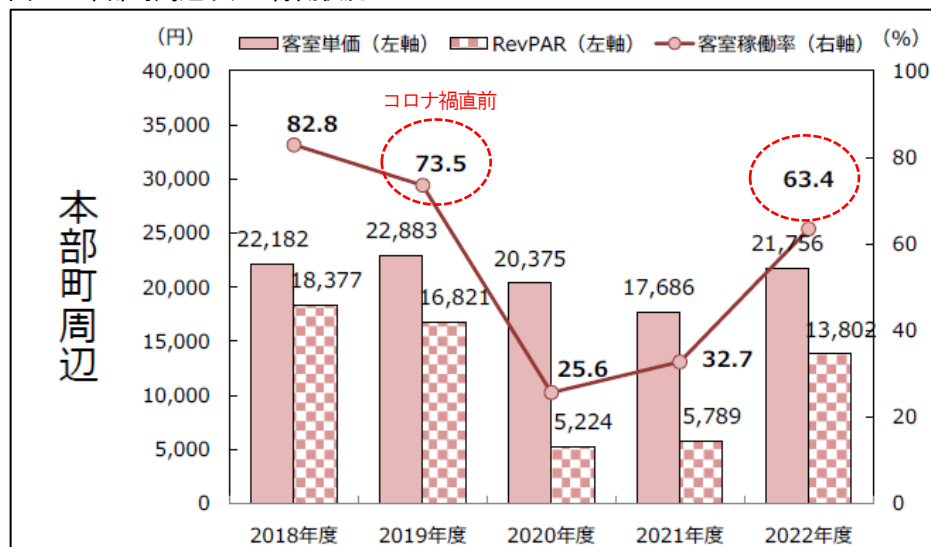
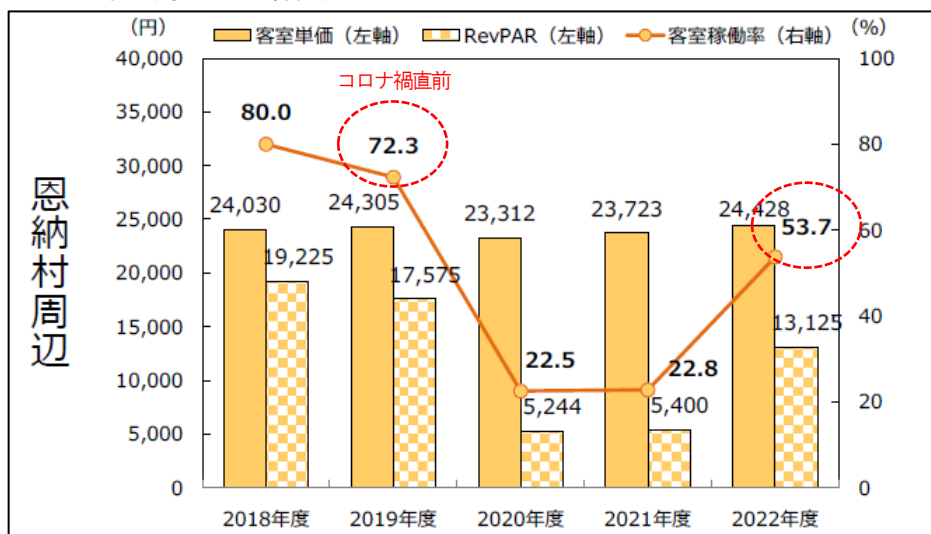


図:2-2 恩納村周辺ホテル稼働状況



出典: 沖縄振興開発金融公庫

※RevPAR: 平均客室単価

②その他の宿泊情報の入手

- 宿泊情報については、各 OTA(※)が収集するデータを活用する方法がある。
- 有償であるものの、宿泊数や人数、宿泊額などやんばる地域への経済効果をある程度把握できる可能性があるとともに、来訪者の属性などを把握することで、今後のターゲット設定などプロモーション戦略の参考にすることができる。

表:2-23 各 OTA の対応

依頼先	じゃらん	楽天トラベル	アゴダ
OTA からの回答	データ提供可	無回答	無回答

※OTA:オンライントラベルエージェント